



編集方針

「サッポログループCSRレポート2014」は、
サッポログループのCSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)活動について、
より多くのステークホルダーの皆様にご覧いただくために発行しました。
主な特長は次のとおりです。

特集:地域と、サッポロ。 ▶ P5-12

創業の地や工場の所在地、原料の生産地など、サッポログループの事業とゆかりのある地域において、それぞれの地域のニーズに応え、その発展に貢献すべく取り組んでいる地域貢献活動を紹介しています。

事業とCSR重要課題 ▶ P13-24

サッポログループの各事業会社が、企業価値を高めていくうえでとくに重視している「CSR重要課題」を、各々の事業活動と関連づけて紹介しています。

CSR重要課題別の活動報告 ▶ P25-44

「サッポログループCSR重要課題」に沿って、2013年にとくに進捗があった取り組みを報告しています。なお、「中期目標」に対する2013年の活動の総括・評価と、2014年の「アクションプラン」については、P45-48に一覧表を掲載しています。

報告対象組織: サッポロホールディングス(株)が発行主体となり、国内を中心に、グループ全体および事業会社とその関係会社、機能分担会社の取り組みを報告しています。また海外の事業会社についても、一部のデータ、活動を報告しています。

対象報告期間: 本レポートで報告した内容は、基本的に2013年1月1日~12月31日を対象としています。また、P13-24「事業とCSR重要課題」には本レポート制作時点の最新の情報を記載しました。

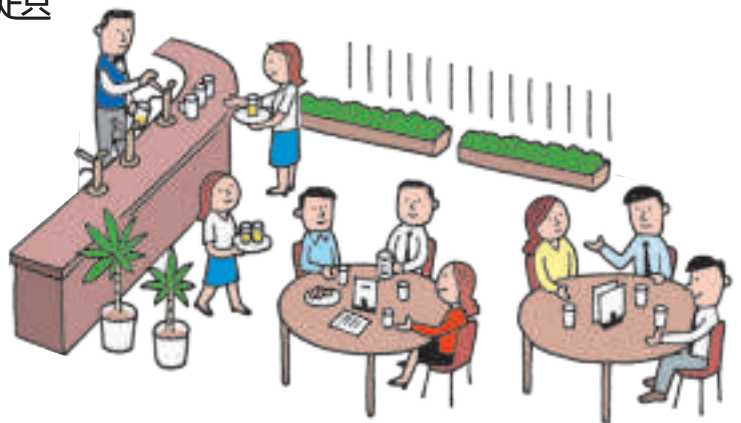
参考にしたガイドライン: 主に環境省の「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考とし、GRIの「サステナビリティレポートガイドライン第3.1版」および「環境配慮促進法(2004年)」なども参照しています。

免責事項: 本報告書には、将来予測も記載しています。これらは制作した時点で入手できた情報にもとづいたものであり、実際の活動結果が予測と異なる可能性があります。

サッポロホールディングスの「CSRサイト」について

Web版の「CSRサイト」ではより詳細な情報・パフォーマンスデータを公開しています。

サッポロホールディングス CSR 検索 <http://www.sapporoholdings.jp/csr/>



03 トップメッセージ

05 **Special Issue** 地域と、サッポロ。

- 07 北海道の自然をもっと豊かにしたいから
- 09 静岡で、もっとも愛されるビールメーカーへ
- 10 名古屋のまちを“ど真ん中”から盛り上げていく
- 11 地元自治体との「連携協定」

13 事業とCSR重要課題

- 15 国内酒類事業
- 17 国際事業
- 19 食品・飲料事業
- 21 外食事業
- 23 不動産事業
- 25 食と空間の品質におけるCSR
- 29 地球環境の保全におけるCSR
- 33 社会との共生におけるCSR
- 37 取引におけるCSR
- 39 人財と職場環境におけるCSR
- 43 健全な企業経営のためのCSR
- 45 CSR重要課題と目標・実績

アンケートにご協力ください

本レポートをご一読いただき、皆様から忌憚のないご意見、ご感想を頂戴できれば幸いです。添付のアンケート用紙にご記入ください。お礼に代えて、サッポロホールディングスより、東日本大震災で被災した三陸沿岸の塩害杉を活かす活動を行っている一般社団法人「被災地ネットワークPLUS」に寄付させていただきます。詳しくは添付のアンケート用紙をご覧ください。なお、2013年版のアンケートには、2014年2月10日現在、805通の返信をいただいています。4月30日時点の返信1通につき200円を、「礼文の花」いっぱい運動～礼文島の自然保護～に寄付する予定です。

「国連グローバル・コンパクト」に参加しました

サッポロホールディングスは、2013年10月31日、「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」に参加しました。UNGCは、国連が提唱する持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みで、「人権」・「労働」・「環境」・「腐敗防止」の4分野にわたる10の原則を掲げ、企業に責任ある行動を促すものです。サッポログループはこの10原則を支持し、これまで以上にステークホルダーの信頼に応えるべく、「サッポログループCSR重要課題」への取り組みを軸に、誠実な企業活動に努めます。



新経営構想の達成を通じて、それぞれの事業特性を活かし、地域に根ざした事業を展開することで、持続可能な社会に向けて取り組んでいきます。

「新経営構想」の達成に向けて

サッポログループは、創業140年にあたる2016年を目標年とした「サッポログループ新経営構想」を2007年に策定し、企業価値向上に向けての取り組みを推進しています。本年はそのゴールまであと3年となるなか、「中期経営計画2014年-2016年」を策定しました。「潤いを創造し豊かさに貢献する」の経営理念のもと「食のメーカー」として成長戦略を加速させ、持続的成長を実現することで目標の達成をめざすとともに、CSR経営を推進し、持続可能な社会に向けて取り組んでいきます。

国内では、酒類事業が「エビスビール」や「極ZERO」の好調により2年連続でビールテイスト飲料市場でのシェアアップを果たしました。新たなビジョン「オンリーワンを積み重ね、No.1へ」を掲げ、サッポロならではのイノベーションを積み重ね、ワインやRTD*なども含めて商品の

多層化推進とブランド強化を図ることで「感動創造企業No.1」をめざします。食品・飲料事業では、2013年ポッカ サッポロフード&ビバレッジが新たに事業をスタートし、お子様からご年配まで幅広い年代のお客様に向けて、さまざまなご提案ができるようになりました。好調の食品部門や外食部門の「カフェ・ド・クリエ」をさらに伸長させるとともに、飲料部門の提案力強化を図り、成長に向けた取り組みを進めていきます。

海外においては、北米・東南アジアを重点エリアとして事業展開を更に推進していきます。酒類事業はカナダでスリーマンが買収後7年連続で売り上げを拡大し、アメリカでも「サッポロ」ブランドが27年連続でアジアビールNo.1を維持しました。東南アジアでは、工場稼働後のベトナム国内で「サッポロ」ブランドが着実に浸透しており、周辺国への輸出も順調に進捗しています。飲料事業では「ポッカ」ブランドがシンガポールで茶系飲料トップシェアを維持しており、2014年新たにマレーシア工場を竣工し、周辺地域への供給能力を倍増させる計画です。外食事業では、サッポロライオンが2013年シンガポールに海外1号店を出店しました。今後も重点エリアにおいて、自社ブランドでの拡大にこだわる独自の事業展開を継続していきます。

また、「食のメーカー」として成長を加速するために、創業



以来の強みである「発酵技術」や主力商品の「原料研究」を中心に、グループ内の研究開発機能を強化し、イノベーションを次々と生み出す環境をつくり、グループの新商品・サービスの開発力及び展開力を高めていきます。

※ Ready to Drinkの略。栓を開けてそのまま飲める低アルコール飲料の総称。

事業を育てていただいた地域社会への感謝を込めて

サッポログループは持続可能な社会に向けた取り組みの一環として、創業の地をはじめ、工場、営業拠点、店舗そして原料生産地など、事業を育てていただいた“ゆかりの地”に対する感謝の思いを忘れずに、それぞれの地域に根ざした活動を展開しています。

サッポロライオンの開業の地である銀座では、銀座4丁目交差点に立地する「サッポロ銀座ビル」を、恵比寿ガーデンプレイスや札幌のサッポロファクトリーと同様に、魅力ある街づくりへの貢献をめざして再開発を進めます。また、ポッカの創業地である名古屋を中心とした地域では、主力商品群の原料であるレモンを素材にした食育をはじめとする活動を行っています。ホップの生産地である岩手県と青森県では、当地のホップを100%使用したビールの発売により、地域活性化に貢献しています。こうした活動を進めるにあたっては、地域の経済活性化支援や防災、環境保全活動、次世代育成支援などを目的

とした「地域協定」の締結を進めており、現在まで全国27の自治体と締結しています。

事業とともに世界に広がる社会的責任を果たしていくために

2013年はグループ内でコンプライアンス違反が複数発生し、ステークホルダーの皆様にはご迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。再発防止への強い決意も含め、「サッポログループCSR重要課題」とそのアクションプランへの取り組みを一段と強化することで、新経営構想において、「グループの持続的な発展を支える重要な戦略」の一つとして位置付けているCSR経営を推進し、企業としての発展をめざすとともに持続可能な社会に向けて取り組んでいきます。

また、海外での事業展開の拡大を踏まえ「国連グローバル・コンパクト」の行動原則に則り、国内外のステークホルダーの信頼に応える企業活動に努めていきます。

サッポログループは、今後も持続的成長に向けて、「新しいNo.1」となる商品やサービスの創造と提供を重ね、世界各地でお客様の豊かな生活のためになくてはならない企業をめざしていきます。

サッポロホールディングス株式会社
代表取締役社長 兼 グループCEO

上條 努



Special Issue

地域と、サッポロ。

地域を愛し、地域のために行動する企業をめざして。
地域の皆様から、愛され続ける企業をめざして。

サッポログループの事業活動は、創業の地や、生産・営業の拠点、原料の生産地など、さまざまな地域とご縁があって、初めて成り立っています。私たちは、こうした認識のもと、ゆかりのある地域とのつながりを大切にし、それぞれの地域のニーズに応えて、その発展に貢献していくために、事業ごとの強みを活かした取り組みを展開しています。地域の皆様から愛される企業グループであり続けるために——サッポログループは、これからも地域を愛し、地域とともに歩み続けます。



Close Up 2 Page 09

静岡で、
もっとも愛される
ビールメーカーへ

創業の地 工場所在地 主な原料生産地



Close Up 3 Page 10

名古屋のまちを
“ど真ん中”から
盛り上げていく



北海道の自然をもっと豊かにしたいから



サッポロが地域を愛する理由

創業の地とのゆかり

サッポログループの事業は、それぞれに“創業の地”があります。

サッポロビールの場合には二つあり、一つは1876年にサッポロビールの前身である「開拓使麦酒醸造所」が産声をあげた札幌。もう一つは、1890年に「エビスビール」が誕生し、後にその商品名が街の名になった恵比寿です。また、サッポロライオンのルーツは、1899年に日本初のピヤホールが開業した銀座です。そして、ポッカブランドの発祥の地は、1957年に前身となるレモン果汁の製造販売会社を設立した名古屋です。これら創業の地は、今日まで事業を育んでくれたふるさとです。そのふるさとと、ともに発展する、それがサッポログループの地域貢献活動の原点です。



開拓使麦酒醸造所

エビスビール醸造場

工場所在地とのゆかり

サッポログループでは、現在、日本全国に6つのビール工場、2つのワイナリー、2つの焼酎工場、5つの食品・飲料工場を有しています。これら工場の所在地では、地域のさまざまな方々のご理解とご支援をいただきながら、生産活動を行っています。これからも、さらに愛される工場をめざして、それぞれの事業の強みを活かした取り組みで地域に貢献していきます。



ポッカサッポロ北名古屋工場

サッポロビール千葉工場

原料生産地とのゆかり

サッポログループは、原料調達から徹底的にこだわるのが、ものづくりの原点だと考えており、原料の生産地とは深いかかわりがあります。日本国内では、ビールの主原料である「大麦(麦芽)」や「ホップ」、ワインの原料である「ぶどう」、ポッカサッポロフード&ビバレッジの主力商品の原料である「レモン」などの生産地があります。これらの地域では、原料を調達するだけでなく、生産者や地域の皆様との交流を図りながら、商品を通じて地域の魅力を発信するなど、地域活性化に貢献できる取り組みを進めています。



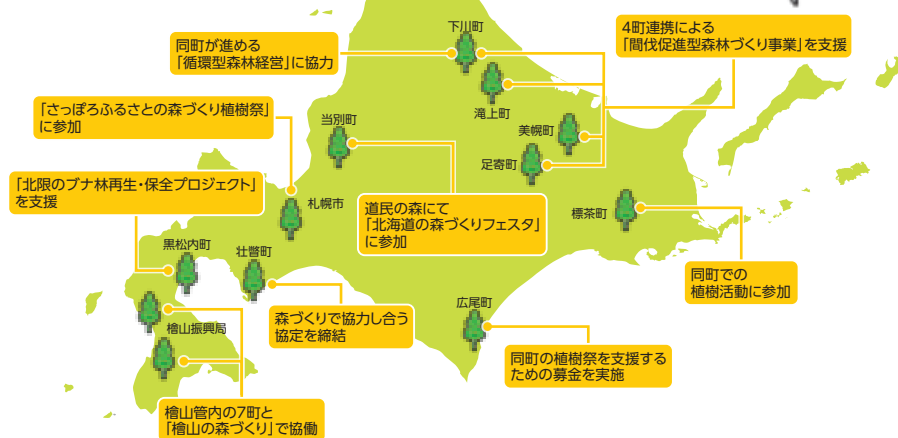
埼玉県の大麦畑

広島県のレモン生産者

Close Up 1

北海道の自然をもっと豊かにしたいから

道内各地での森林保全への貢献



当別町「道民の森」での植樹活動



厚沢部町（檜山管内）での植樹活動



標茶町での植樹活動

自然の恵みを楽しむ私たちの使命

サッポログループのふるさとの一つである、北海道。その豊かな自然は、原料や食材、エネルギーなどを育み、私たちの事業活動の根底を支えると同時に、私たちを取り巻く社会にさまざまな恩恵をもたらしてきました。

なかでも北海道の森林面積は、国内全体の約4分の1を占めており、地球温暖化や生物多様性の損失が顕在化する今日において、森林の維持・保全は大変重要な課題です。

サッポログループは、森林をはじめとした豊かな自然を守り、幾世代にもわたって受け継いでいくことが、自然の恵みを得て事業活動を行う企業の責任であり、使命であると考えています。こうした思いのもと、長年にわたり、北海道のさまざまなステークホルダーとともに、自然保護の取り組みを行っています。

自治体など地域の方々とともに取り組む森林保全

サッポログループは、2007年に北海道庁の「ほっかいどう企業の森林づくり事業」に参加したのを皮切りに、各地の自治体などとの連携のもと、森林保全活動を道内全体に広げてきました(上図)。

2013年は釧路湿原の上流、標茶町での植樹活動に参加しました。また、絶滅危惧種であるシマフクロウなどの野鳥が棲める森づくり活動を支援するため、地域の環境NPOなどに寄付金を

贈呈し、鳥獣保護区などでの植樹活動を支援しました。

今後も地域との連携を強化し、北海道の森林保全への取り組みを継続していきます。



森づくりに取り組むNPOへの寄付金贈呈式

STAKEHOLDER'S



同じ名をもつ者同士の“縁”を大切に

同じ「サッポロ」の名を冠する当市とサッポログループ様は、明治期の開拓時代から、深い縁で結ばれています。現在、当市では、企業の皆様と協働してまちづくりを進める「さっぽろまちづくりパートナー協定」事業を推進しており、サッポロホールディングス様、サッポロビール様にも2008年に締結いただきました。以来、「さっぽろふるさとの森づくり植樹祭」など幅広いご支援をいただいております、心から感謝申し上げます。

札幌市 総務局長 板垣 昭彦 様



(写真上) 標茶町での植樹活動 (写真左下) 厚沢部町での植樹活動 (写真右下) 洞爺湖サミットに先駆けて、2007年に壮瞥町で植樹した5haの現在の様子

🌲 キャンペーン活動による カーボン・オフセット

カーボン・オフセットとは、事業活動などで排出されるCO₂を、ほかの場所での排出削減量や吸収量などの購入によって相殺（オフセット）するという考え方です。サッポログループは、このカーボン・オフセットに着目し、2012年から、森林保全のための新たな取り組みを開始しました。

サッポロビールとサッポロライオンは、2012年2月～2016年1月までの4年間、北海道内のサッポロライオン各

店舗で「北海道の森に乾杯」キャンペーンを実施しています。この活動は、下川町、足寄町、滝上町、美幌町の4町で構成される北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会が行う「間伐促進型森林づくり事業」への支援の一環として行われるものです。サッポロライオン店舗で販売されたビールの量に応じて、その製造工程から排出されたCO₂を、同協議会が発行するオフセット・クレジットを活用して相殺します。

また、サッポロビールは、コープさっぽろ様と北海道の3者共同による「北海

道の森を元気にしよう! キャンペーンを2013年11月～12月にかけて実施しました。これは、「サッポロ麦とホップ 北海道の森に乾杯缶」1缶につき、CO₂約66gにあたる1円を相殺するものです。この取り組みの結果、北海道の森林保全活動に135万円を寄付するとともに、売り上げの一部から10万円を「コープ未来の森基金」に寄付しました。



サッポロ麦とホップ
北海道の森に乾杯缶



「北海道の森を元気にしよう! キャンペーン」の記者発表

STAKEHOLDER'S



3者共同キャンペーンへの想い

サッポロビール様からキャンペーンの企画をうかがった時は、「カーボン・オフセットをPRする絶好の機会だ」と思いました。コープさっぽろ様、サッポロビール様という「北海道の大手さん」が共同で取り組むということは、道民の皆様や道内企業にとって大きなインパクトがあります。これからも、このキャンペーンを「先駆的事例」として紹介し、ふるさと北海道の豊かな自然の保全につなげたいと思っています。



北海道水産林務部森林環境局 道有林課道有林管理グループ 主幹 佐藤 専 様

Close Up 2

静岡で、もっとも愛されるビールメーカーへ

サッポロビール「静岡プロジェクト」

静岡が好きだから宣言

- ★ 大好きな静岡県に伝わるものを大切にします。
- ★ 大好きな静岡県を守ることに貢献します。
- ★ 大好きな静岡県のおいしいと調和します。
- ★ 大好きな静岡県のにぎわいを創造します。
- ★ 大好きな静岡県の元気を応援します。

静岡が好きだから。
静岡育ち ★ サッポロビール



静岡プロジェクトを立ち上げ「静岡が好きだから宣言」を発表

サッポロビールが、静岡県焼津市に工場を竣工したのは1980年のこと。以来30有余年、大手では唯一静岡県所在のビール工場として県民の皆様とともに歩んできました。

そうして培ってきた地域との信頼関係を活かし、「静岡県を一番愛するビール会社になろう」「静岡県民の皆様からも一番愛されるビール会社をめざそう」との思いを具現化するため、2012年に社内で「静岡プロジェクト」を立ち上げました。そして2013年2月6日、今後も静岡県と共生していく決意を「静岡が好きだから宣言」として発

表しました。

さらに、2月20日には、サッポロホールディングスとともに、静岡県との「包括連携協定」を締結しました。この協定は、3者がお互いの資源を活用し、地域の諸課題に対応することで、いっそうの地域活性化と県民サービスの向上に資することを目的としたものです。

静岡ならではのビール、「静岡麦酒<樽生>」の発売

2月23日の富士山の日には、「静岡が好きだから宣言」を形にした県内限定販売商品「静岡麦酒<樽生>」を発売しました。開発にあたっては、「静岡らしい静岡のためのビール」をコンセ

プトに、静岡出身の企画担当者や醸造技術者などが結集。県内のお客様にも試作品の試飲や、ネーミングに関するアンケートなどに参加していただきました。

2013年12月末現在、県内1,137店の飲食店で取り扱っていただいております。静岡の食文化の魅力をお伝えする一助となっています。また、売り上げの一部は、2015年に静岡県内や岡崎市で開催される「徳川家康公顕彰400年記念事業」へ寄付する予定です。

このほかにも、地元を応援するためのオリジナル商品の販売や、地域のイベントへの協賛など、静岡を盛り上げるさまざまな活動を展開しています。



「静岡麦酒<樽生>」の発表会

STAKEHOLDER'S



静岡を愛する皆様とともにつくる“ふじのくに”

サッポログループ様には、包括連携協定にもとづき、幅広い分野でご協力いただき感謝申し上げます。世界遺産・富士山を擁する静岡県は、農林水産物の生産品目数が日本一の「食材の王国」です。昨年の「富士山の日(2月23日)」に生まれた「静岡麦酒」と併せて豊かな水・緑・大地が育む“ふじのくに”の味覚をご堪能ください。今後も、サッポログループ様をはじめ、静岡を愛する皆様と一緒に、美しく気高い富士山に恥じない地域づくり、日本の理想郷の実現をめざします。

静岡県知事 川勝 平太 様

名古屋のまちを “ど真ん中”から 盛り上げていく 久屋大通公園での地域貢献活動

■スローガン
ふるさとナゴヤとともに。

■活動テーマ

「人」にやさしく

:教育・スポーツ・文化芸術の支援など

「体」にやさしく

:子どもたちへの食育、健康講座など

「街」にやさしく

:地元生産者との協働、まちおこし、環境配慮など



名古屋テレビ塔支援自販機の除幕式

ポッカサッポロフード&ビバレッジは、ポッカ創業の地である名古屋および中部地区への貢献を目的に、“ふるさとナゴヤとともに。”をスローガンに掲げ、「人」「体」「街」の3つの視点から、幅広い活動を展開しています。名古屋の中心に位置する久屋大通公園では、同社のみならずサッポログループ全体で、街の活性化に向けた取り組みを推進しています。



名古屋のシンボル 「テレビ塔」の存続を支援

ポッカサッポロフード&ビバレッジは、名古屋テレビ塔の存続支援のための寄付活動を展開。名古屋市内に寄付ボタン付き自動販売機を設置し、広く市民の皆様から集めた募金を、存続や活性化のプロジェクトに役立てています。



寄付ボタン付き自動販売機



日本最大級の踊りの祭典 「どまつり」を支援

ポッカサッポロフード&ビバレッジは、名古屋の夏の風物詩である「[にっぽんど真ん中祭り(通称:どまつり)]」のメインスポンサーを2012年からつとめています。さらに、2013年はサッポログループが一丸となって「栄地区の賑わいづくり」に協力。会場の一部では出場者への熱中症対策としてポッカレモンでつくったレモネードを提供しました。



地元の若者による熱気あふれる踊り

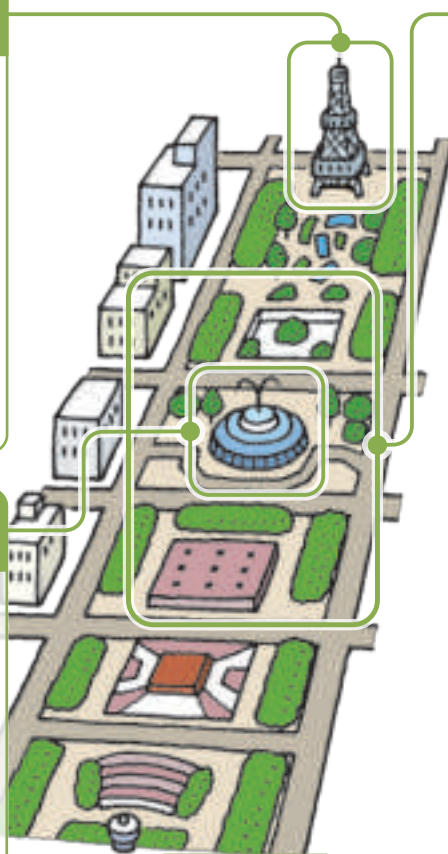


会場内でポッカサッポロ商品を提供



名古屋市の「公園パートナー」 としてビヤフェスタを運営

サッポロライオンは、名古屋市内の久屋大通公園において2013年5月～9月に「栄ふんすいビヤフェスタ2013～水と緑の希望の広場」を開催しました。これは、名古屋市の「公園パートナー」企業として、市が取り組む「にぎわい広場の制度設計」の検討に向けた社会実験に参加したものです。開催中は、ご当地料理や地産地消メニューの販売、公園内の緑化・清掃活動などさまざまなイベントを、サッポログループが一丸となって応援しました。



久屋大通公園

Column

地域との絆を、より深めていくために――

地元自治体との
「連携協定」

「事業とゆかりの地域とともに発展していく」というサッポログループの姿勢は、全国の地方自治体と締結した「地域連携協定」という成果になって現れています。これらの協定は、行政と連携しながら、各地域のニーズに応じて、グループ各社のそれぞれの強みを活かした貢献活動を推進することをめざすもので、主に次の4つを目的としています。

- ① **地域経済の活性化**
物産品の消費促進、情報発信など
- ② **環境の美化**
環境保全、清掃活動など
- ③ **住民の皆様の生活への寄与**
防災、文化の伝承など
- ④ **次世代を担う子どもたちへの支援**
食育、青少年育成など

2007年に北海道と締結した「包括連携協定」を皮切りに、2013年12月末現在で、全国27の自治体と「地域連携協定」を締結しています。

今後もこれらの協定にもとづき、関係者の皆様との密接なコミュニケーションや協働を図ることで、いっそう地域に貢献し、さらに愛されるサッポログループをめざします。

地域連携協定の締結地域

締結日	協定先
1997年	3月18日 大分県日田市※1
2007年	2月14日 北海道※2
	10月 3日 北海道壮瞥町
2008年	12月17日 北海道札幌市※2
2009年	7月29日 北海道※2
2010年	7月 2日 北海道函館市
2011年	2月25日 徳島県阿南市
	7月20日 北海道旭川市
2012年	1月24日 岡山県井原市
	1月31日 北海道下川町、足寄町、滝上町、美幌町※
	3月28日 愛媛県八幡浜市
	7月 5日 愛知県北名古屋市
2013年	7月11日 静岡県磐田市
	7月30日 北海道佐呂間町、美幌町※、北見市、網走市
	2月 6日 広島県
	2月20日 静岡県
	4月10日 宮城県名取市
	5月 9日 北海道札幌市※2
	5月22日 愛知県豊田市
8月19日 岩手県二戸市、軽米町、岩手町、青森県三戸町、田子町	

(2013年12月末日現在)

※1 「地域連携協定」の先駆けとなる「立地協定」を締結

※2 北海道、札幌市、美幌町はそれぞれ異なる2種の協定を締結

取り組み事例



広島県

「パートナーシップ協定」



サッポログループは、国産レモン生産量No.1の広島県と「瀬戸内 広島レモン」の需要拡大とブランド向上などを目的に「パートナーシップ協定」を締結。ポッカサッポロフード&ビバレッジでは、「広島レモン」を使った商品の販売や情報発信など、レモンの加工食品No.1ブランドの強みを活かした活動を展開しています。



岩手・青森5市町

「包括連携協定」



ホップの生産地、岩手県二戸市、軽米町と岩手町、青森県三戸町、田子町の5市町と協定を締結。当地で収穫されたホップを使った「サッポロ生ビール黒ラベル 東北ホップ100%」などの商品を製造、販売しています。また、「ホップまつり」を5市町と共催し、ホップの名産地であることをPRしています。



岡山県井原市

「まちづくり協定」



サッポロビールの前身である「大日本麦酒」社長で、「東洋のビール王」と呼ばれた馬越恭平の出身地。ワインの原料「マスカットベリーA」の産地でもあります。サッポロビールや、ポッカサッポロフード&ビバレッジの商品の売り上げの一部を街づくりのために寄付しています。



大分県日田市

「立地協定」



サッポロビールは、1997年に大分県日田市への新工場建設を決定するにあたり、一連の「地域連携協定」に先駆けて、同市と「立地協定」を締結しました。日田市が有する全国有数の豊かな森林を守り、育てる保全活動や、地域のイベントに参加し、地域の皆様と交流を深めています。

サッポログループが果たす

企業の社会的責任

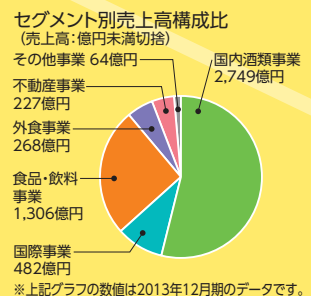
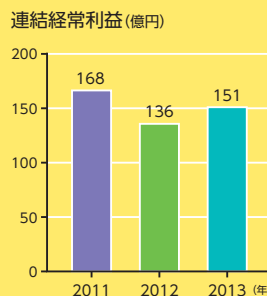
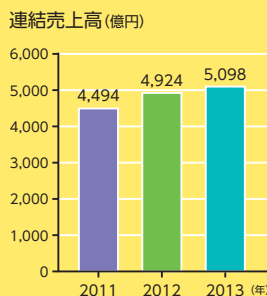
6つの分野で「CSR重要課題」を掲げ、
きちんと責任を果たしています。



	国内酒類事業 Page ➡ 15 - 16
	国際事業 Page ➡ 17 - 18
	食品・飲料事業 Page ➡ 19 - 20
	外食事業 Page ➡ 21 - 22
	不動産事業 Page ➡ 23 - 24

サッポロホールディングス株式会社 COMPANY PROFILE

設立 1949 (昭和24)年9月1日
 創業 1876 (明治9)年
 本社 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号
 代表者 代表取締役社長 兼
 グループCEO 上條 努
 事業概要 純粋持株会社
 (グループの経営戦略の策定、管理)
 資本金 53,886百万円
 発行済株式数 393,971千株



重要課題

1

食と空間の
品質における
CSR

お客様の信頼と
満足を生み出す品質を
提供するために。

活動テーマ ● 安全・安心な品質の提供 ● 喜んでいただける品質の追求

Page → 25 - 28



重要課題

2

地球環境の
保全における
CSR

豊かな地球環境を
幾世代にもわたり
受け継いでいくために。

活動テーマ ● 低炭素社会の実現 ● 循環型社会の実現 ● 自然共生社会の実現

Page → 29 - 32



重要課題

3

社会との
共生における
CSR

酒類を扱う企業としての
責任を果たし、事業を営む
地域の活性化に貢献するために。

活動テーマ ● 地域社会への貢献 ● 適正飲酒の啓発活動

Page → 33 - 36



重要課題

4

取引に
おける
CSR

原材料の調達においても、
サプライヤーと連携し、
社会や環境への配慮を。

Page → 37 - 38



重要課題

5

人財と職場
環境における
CSR

グループの全従業員が、
自分らしく、
いきいきと働けるように。

活動テーマ ● 働きやすく快適な職場環境の実現 ● 一人ひとりの実力発揮と、組織の多様性の実現

Page → 39 - 42



重要課題

6

健全な企業
経営のための
CSR

公正で健全な企業経営を
実践できる組織体制の
確立に向けて。

活動テーマ ● 内部統制と情報開示 ● コンプライアンスの推進

Page → 43 - 44





乾杯を、もっとおいしく。

お客様に支持される品質を求め続けて130有余年。
創業以来、サッポロビールはオンリーワンのおいしさ創造企業です。



主なCSR重要課題

重要課題

1
食と空間の
品質における
CSR

安全・安心でおいしい商品づくり

「安全・安心」で「おいしい」ビールは、調達から製造、物流、販売に至るすべての段階で、徹底的に品質を管理することによってつくられます。サッポロビールでは、麦芽・ホップの100%協働契約栽培化や、ビールが通るすべてのラインをまるごと交換できる生ビールサーバーの開発など、各段階における取り組みを通じて、お客様にお飲みいただく瞬間まで品質にこだわり続けています。

重要課題

3
社会との
共生における
CSR

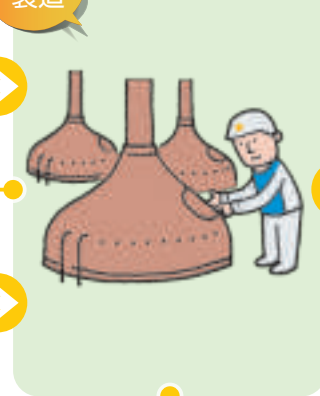
ゆかりの地で 地域貢献

北海道や恵比寿といった創業の地をはじめ、原料の生産地や工場・営業拠点の所在地など、事業活動にゆかりのある各地域で、その発展に貢献する活動を推進しています。
(☞ 関連記事:P5-12)

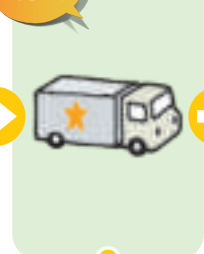
調達



製造



物流



重要課題

2
地球環境の
保全における
CSR

バリューチェーン全体での環境負荷低減

自然の恵みに支えられ事業を営んでいるサッポロビールにとって、地球環境の保全は企業経営の根幹にかかわるテーマです。そこで、環境保全推進体制を整備し、製造段階のみならず、原材料の調達段階からお客様の消費段階まで、バリューチェーン全体に目を配り、環境負荷の低減に取り組んでいます。(☞ 関連記事:P29)

サッポロビール株式会社

「感動創造ナンバーワン企業」をめざして前進します。

当社は酒類の製造・販売を通して「楽しさ」や「喜び」、「明日への活力」といった価値を提供し、お客様のより豊かな生活への貢献をめざしています。創業以来の「ものづくり」へのこだわりは、原材料の調達から製造、販売を経て、商品をお客様にお飲みいただくまでのバリューチェーン全体に活かされています。

2013年には、新たなビジョン「オンリーワンを積み重ね、No.1へ」を掲げました。このビジョンのもと、私たちにしかできないオンリーワンのモノ・コトを追求し、常に「お客様起点」で行動することで、驚きと感動を実感していただける「感動創造ナンバーワン企業」をめざして前進します。また、酒類を販売する企業の社会的責任として、適正飲酒の啓発活動にも注力していきます。



代表取締役社長 尾賀 真城

COMPANY PROFILE

設立 2003(平成15)年7月1日
 本社 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号
 代表者 代表取締役社長 尾賀 真城
 資本金 10,000百万円
 事業内容 ビールテイスト飲料・ワイン・焼酎・洋酒その他の酒類等の製造・輸入・販売ほか



ビールテイスト飲料

ノンアルコール飲料・RTD

和酒

ワイン・洋酒

重要課題

1

食と空間の品質におけるCSR

商品改善・開発へのお客様の声の反映

ライフスタイルや価値観の多様化にともない、お客様の商品に対する嗜好も多様化しています。サッポロビールでは、これまで以上にお客様のご意見やご指摘に耳を傾け、商品の改善・開発に活かすための取り組みに注力しています。(➡ 関連記事:P25-26)

販売



消費



重要課題

3

社会との共生におけるCSR

お客様への適正飲酒の啓発

2013年に「アルコール健康障害対策基本法」が制定されるなど、近年、適正飲酒啓発の重要性が増しています。こうしたなかサッポロビールは、未成年者への啓発や、飲酒運転の防止など、さまざまな取り組みを行っています。(➡ 関連記事:P36)

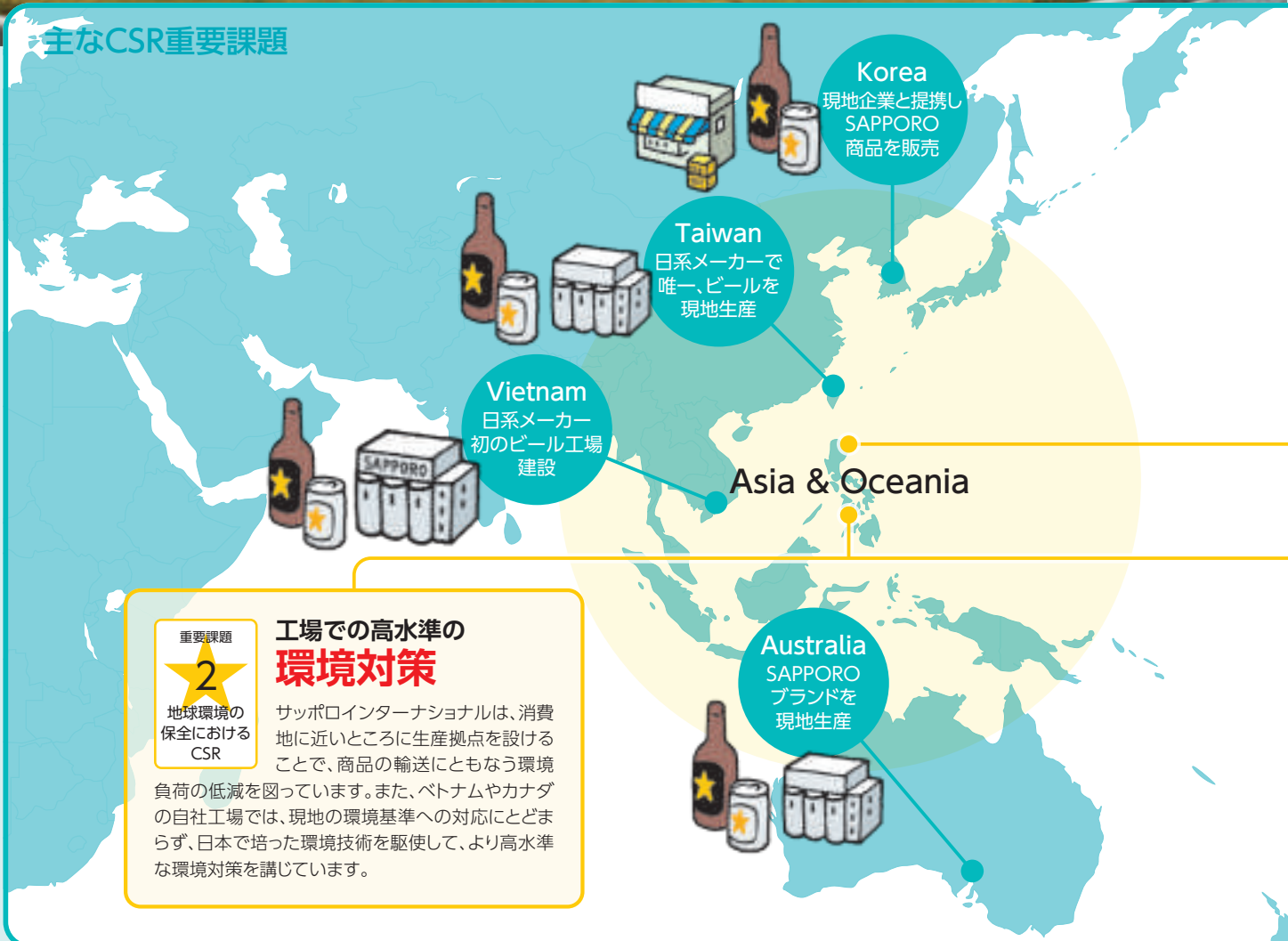


世界の人々の乾杯も、もっとおいしく。

海外各地の現地社会とともに、そこに暮らす人々とともに。
世界から選ばれる「サッポロ」ブランドをめざしています。



主なCSR重要課題



サッポロインターナショナル株式会社

「現地人財の育成」と「地域社会からの信頼」を両輪として。

サッポログループは、世界各地でグローバルに事業を展開するうえで、「現地人財の育成」と「地域社会からの信頼」を大切にしてきました。とりわけ主力ブランドの「SAPPORO PREMIUM」の品質を理解し、製造や販売にあたる現地スタッフの存在は大きく、その育成と積極的な登用に努めています。また、事業を営む地域社会のさまざまなステークホルダーの信頼に応えるべく、環境保全や社会貢献にも注力しています。

こうした地道な活動の積み重ねが実を結び、「北米」「東南アジア・オセアニア」という2つの重点エリアを中心に確かな成果を導き、グループ全体の成長を牽引しています。今後もこれらの活動を着実に推進し、ブランドへの信頼をさらに高めるとともに、世界中の人々の楽しく豊かな生活に貢献していきます。



代表取締役社長 岩田 義浩

COMPANY PROFILE

設立 2006 (平成18)年12月30日
 本社 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号
 代表者 代表取締役社長 岩田 義浩
 資本金 15,503百万円
 事業内容 国際事業 (海外における酒類・飲料の製造・輸出・販売)の管理・運営



ビール



シルバー スプリングス シトラス商品



スリーマン ゴルフ工場 (カナダ)



シルバー スプリングス シトラス工場 (アメリカ)

重要課題

3

社会との共生におけるCSR

現地の人々・社会への貢献

サッポロインターナショナルは、事業を展開する各国・各地域の社会に根ざした事業を展開し、現地の人々から信頼され、愛される会社になることをめざしています。そのため、地域の活性化や医療、スポーツの振興など、各地域のさまざまな課題解決のため、イベントへの協賛や、NPOを通じた支援など、社会貢献活動に注力しています。また、従業員についても現地の人財を積極的に採用し、現地社会の雇用創出にも貢献しています。



Canada
プレミアム
ビール市場を
牽引

USA

1986年以來
アジアビール
No.1シェア



North America

USA

北米での
飲料事業に
本格参入



重要課題

5

人財と職場環境におけるCSR

サッポロ品質を担う人財育成

サッポロの品質へのこだわりを海外でも貫いていくためには、現地従業員一人ひとりに「サッポロ品質」への理解を深めてもらうことが不可欠です。そこで、海外従業員を日本に派遣しての研修を毎年実施し、ビールづくりのノウハウや価値観の共有を図っています。

(関連記事:P42)



新たな「おいしい」を、次々と。

創業以来こだわり続けてきた素材や技術を活かして、毎日の生活に彩りと輝きを加えるお手伝いをします。



主なCSR重要課題

重要課題
★1
食と空間の
品質における
CSR

おいしく、 健康に役立つ 商品づくり

創業以来、長きにわたり蓄積してきたレモンに関する知見を活かして、健康に役立つレモンの新たな機能や使い方を研究し、さまざまな商品を提案しています。
(☞ 関連記事:P27)

研究開発



調達



重要課題

★3
社会との
共生における
CSR

レモン産地を通じた**地域活性化**への貢献

レモン需要のさらなる拡大のため、国内有数の産地である広島県とパートナーシップ協定を結び、レモンを活かした商品開発などに取り組んでいます。(☞ 関連記事:P12)

重要課題

★2
地球環境の
保全における
CSR

環境に配慮した容器の採用

商品特性や使い方に応じて最適な容器を開発するとともに、廃棄物の発生抑制やリサイクルなどに配慮した容器を積極的に採用しています。(☞ 関連記事:P31)

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

新たな体制のもと、事業の成長と社会への貢献を追求します。

2013年1月にポッカコーポレーションとサッポロ飲料が経営統合し、新たなスタートを切った当社では、「レモン・ナチュラルフード」「飲料」「スープ・食品」「業務用」「海外ブランド」の5つのカテゴリーで事業の成長を図っています。また、これらの事業活動を通じて、広島県との「パートナーシップ協定」の締結など、多くの地域社会への貢献活動を展開しています。

さらに、環境対策やコンプライアンスの強化にも取り組んでおり、2013年は、名古屋工場の再整備とともに、最新の製造設備の導入や、すべての部署へのコンプライアンス推進担当者の配置を行いました。

今後も、二つの企業が一つになったことで生まれる斬新なアイデアやひらめき、あふれ出る情熱で夢を実現し、お客様に「おいしい」をお届けし続けます。



代表取締役社長 國廣 喜和武

COMPANY PROFILE

設立 2012(平成24)年3月30日
本社 愛知県名古屋市中区栄四丁目2番29号
代表者 代表取締役社長 國廣 喜和武
資本金 5,431百万円
事業内容 食品・飲料の製造・輸入・販売、外食店舗の経営ほか



重要課題

2
地球環境の
保全における
CSR

新工場での
最新の製造設備の導入

名古屋に新設した飲料工場では、最新の製造設備を導入し、製造段階での環境負荷の低減に取り組んでいます。

製造



消費



重要課題

3
社会との
共生における
CSR

子どもたちへの
食育に貢献

優れた健康機能をもつレモンを使ったセミナーや料理教室などを通じて、健康的な食生活の大切さを、子どもたちに楽しく、わかりやすくお伝えしています。

重要課題

5
人財と職場
環境における
CSR

従業員へのレモン教育

レモンの良さをお客様に熱く語る従業員を増やすため、レモンの特性はもちろん、商品・広告への表示方法、健康関連の法規制などの正しい知識の習得を支援しています。



飲食を通じて、「JOY OF LIVING」を。

「安全・安心、本物志向」を基本に、おいしい生ビールと料理、そして心のこもったおもてなしを提供します。



主なCSR重要課題

重要課題

1
食と空間の
品質における
CSR

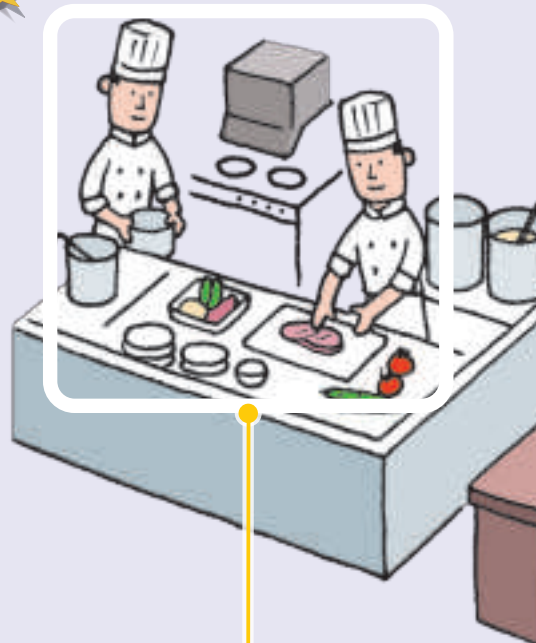
安全・安心 な食材の確保

お客様に安全・安心でおいしい料理を召し上がっていただくため、信頼できる食材の調達はもとより、トレーサビリティを高めるシステムを導入しています。(👉 関連記事:P28)

調達



店舗



重要課題

2
地球環境の
保全における
CSR

お店から出るごみも、大切にリサイクル

食品リサイクル法に対応し、店舗から出るごみの量を抑制するため、適正な仕入れなどによりロスを防いでいます。また、今後は再生利用に役立てるため、発生した生ごみの分別を徹底していきます。(👉 関連記事:P32)

株式会社 **サッポロライオン**

創業以来の“おもてなし”を世界中に広げていきます。

飲食を通じて、お客様はもとより、お取引先や従業員に「JOY OF LIVING (生きている喜び)」を提供する——それが当社の使命です。1899 (明治32) 年に我が国初のビヤホールを東京・銀座に開店して以来、「安全・安心」と「おいしさ」「優しさ」を基本に、おいしい生ビールと料理、そして真心のこもった“おもてなし”をお客様に提供してきました。

創業以来培ってきた「日本のビヤホール文化」を世界に展開するため、2013年10月には、シンガポールに念願の海外初出店となる「GINZA LION BEER HALL」を開店しました。今後は国内のみならず海外においても、ライオンの生ビールのおいしさ、外食することの楽しさや豊かさを提供すべく、「JOY OF LIVING」を味わっていただける店舗を世界中に広げていきます。



代表取締役社長 刀根 義明

COMPANY PROFILE

設立 1949 (昭和24) 年9月1日
 本社 東京都中央区八丁堀四丁目3番3号Daiwa京橋ビル2・3F (本社事務所)
 代表者 代表取締役社長 刀根 義明
 資本金 4,878百万円
 事業内容 外食店舗 (直営・FC・運営受託) の経営、商品の通信販売



GINZA LION BEER HALL (シンガポール)



YEBISU BAR



重要課題
5
 人財と職場環境におけるCSR

いきいきと働ける職場環境づくり

お客様にご満足いただくためには、店舗従業員が「心に残るサービス」を継続して提供することが不可欠です。そのため、従業員がやりがいをもって、いきいきと働ける職場環境づくりのために、さまざまな施策を実施しています。(➡ 関連記事:P39-40)

重要課題
1
 食と空間の品質におけるCSR

日本一おいしい生ビールの提供

日本初のビヤホールを誕生させたパイオニア企業として、「日本一おいしい生ビール」をご提供するため、日々、生ビールの品質管理と、熟練の技の伝承に努めています。



街づくりを通して、「豊かな時間」と「豊かな空間」を。

恵比寿・銀座・札幌の3つのエリアを中心に
人々が集い、楽しみ、憩う、魅力的な街づくりに取り組んでいます。



主なCSR重要課題

重要課題

★
1

食と空間の
品質における
CSR

安全・安心 な街づくり

訪れるお客様・居住者・
オフィスワーカーに安心して過ごしていただくために、非常用発電設備の導入や免震構造の採用といったハード面、地域やテナントの皆様も参加する定期的な防災訓練といったソフト面の両方から、災害時への備えを強化しています。

(➡ 関連記事:P28)

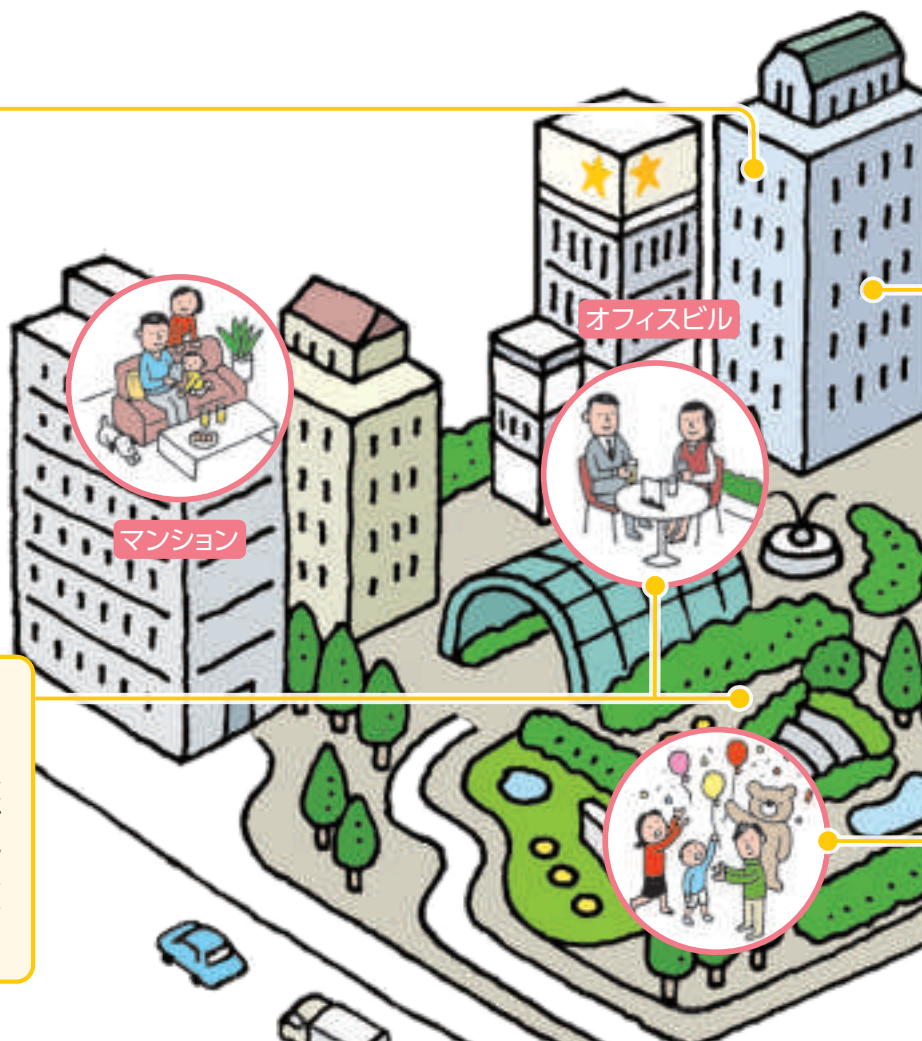
重要課題

★
1

食と空間の
品質における
CSR

人に優しい 街づくり

さまざまな施設利用者の利便性・快適性を考慮し、施設のバリアフリー化や分煙を推進しています。また、憩いのスペース・植栽・花壇などの充実を図り、皆様への豊かな時間と豊かな空間の提供に努めています。



サッポロ不動産開発株式会社

人や環境に優しい街づくりを通して、
社会に貢献していきます。

当社は、街づくりを通して「豊かな時間」と「豊かな空間」を育むことで、社会に貢献したいと考えており、多くの人々が集い、楽しみ、憩う、魅力ある街づくりに努めています。地域的にはサッポログループと縁が深い恵比寿・銀座・札幌を中心に、事業展開をしてきました。そして2013年にはサッポロビール発祥の地にある「サッポロファクトリー」が、また2014年にはエビスビール発祥の地にある「恵比寿ガーデンプレイス」が、開業20周年を迎えることとなりました。

今後も、地域との良好な関係を築きながら、人に優しい街づくりを進めていくとともに、最新技術を積極的に取り入れ、安全・安心で、環境負荷の低い施設づくりを推進することで、社会的責任を果たしていきたいと考えています。



代表取締役社長 生駒 俊行

COMPANY PROFILE

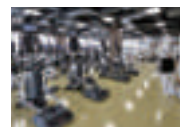
設立 1988(昭和63)年6月28日
本社 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号
代表者 代表取締役社長 生駒 俊行
資本金 2,080百万円
事業内容 不動産の所有・賃貸・管理、不動産開発、ホテル・スポーツ施設運営ほか



恵比寿ガーデンプレイス



サッポロファクトリー

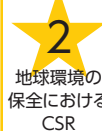


サッポロスポートプラザ PAL



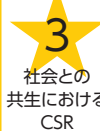
ホテル クラビーサッポロ

重要課題

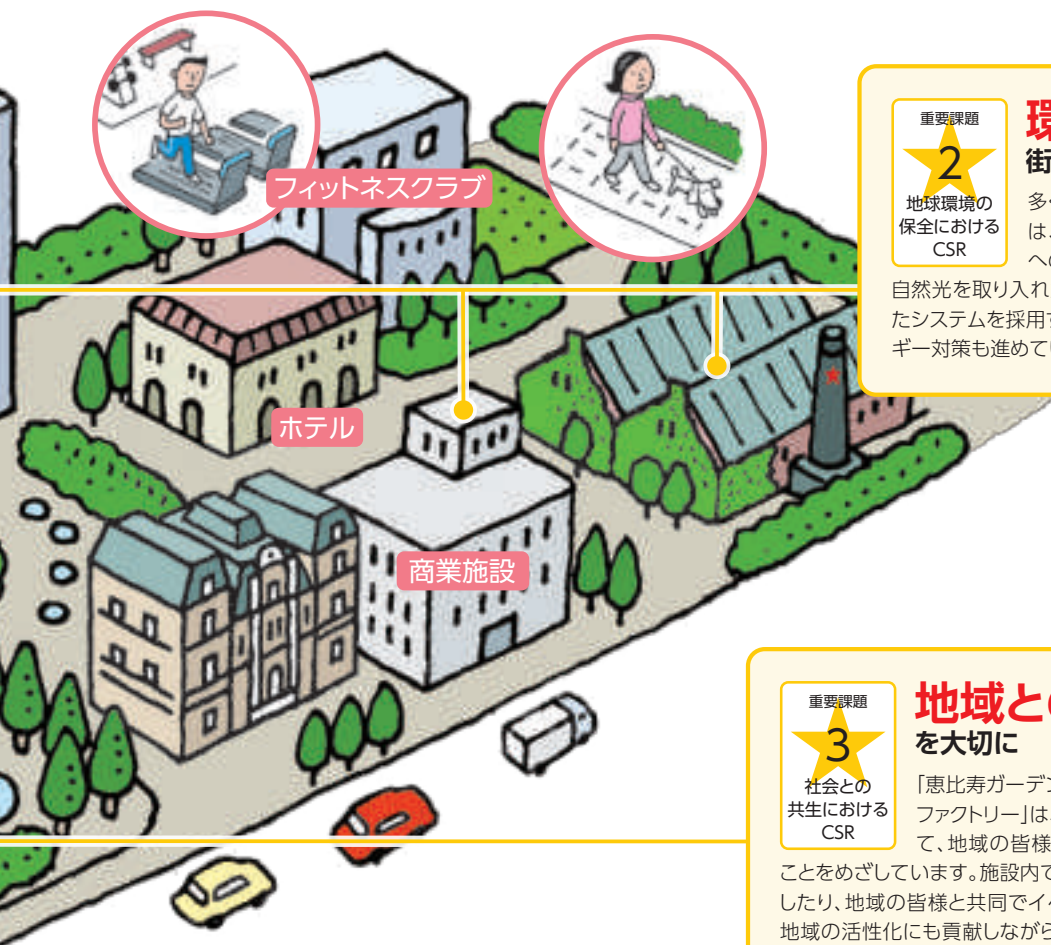
地球環境の
保全における
CSR環境負荷の低い
街づくり

多くの企業や店舗が入居する施設では、テナントの皆様にご協力をお願いしています。また、自然光を取り入れた建物構造や、自然換気を活用したシステムを採用することで、ハード面での省エネルギー対策も進めています。(☞ 関連記事:P30)

重要課題

社会との
共生における
CSR地域とのかかわり
を大切に

「恵比寿ガーデンプレイス」や「サッポロファクトリー」は、その街のシンボルとして、地域の皆様に愛される存在になることを目指しています。施設内で地域のイベントを開催したり、地域の皆様と共同でイベントを開催するなど、地域の活性化にも貢献しながら、魅力的な施設空間づくりに努めています。(☞ 関連記事:P35)



食と空間の品質におけるCSR

サッポログループは、商品やサービス、施設空間など、お客様に提供するすべてにおいて、お客様の信頼と満足を生み出す品質の実現を使命としています。

このため、「安全・安心な品質の提供」「喜んでいただける品質の追求」をテーマに、現状に満足することなく、常にお客様の声に耳を傾け、より高いレベルの品質を追求し続けます。



国内酒類事業の取り組み

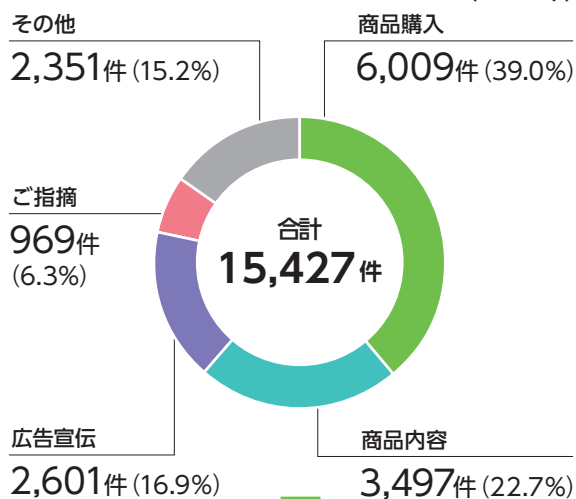
活動テーマ:喜んでいただける品質の追求

すべての従業員が「お客様の声」に向き合い、その期待に応えていくために

サッポロビールのお客様センターには、年間1万5千件を超える「お客様の声」が寄せられます。そこには商品やサービスの改善につながる貴重なヒントが含まれており、検討が必要な案件については、本社の関係各部署で共有し、改善活動につなげています。2013年中には10件の改善を実現するなど、着実に成果を生み出しています。

そして近年は、「お客様の声」を経営や事業活動の改善にも活かしていくために、従業員一人ひとりに「お客様起点」の意識を浸透させるべく、さまざまな施策に取り組んでいます。

サッポロビール(株)に寄せられるさまざまなご意見 (2013年)



すべてのご意見を検討し、事業活動改善のヒントに!

施策 1

工場や研究所など全国の事業場でお客様の生の声を聴く研修会を開催

「お客様の声」を起点とした活動を全社レベルに広げるため、「お客様の声を聴く会」を開催しています。これは、工場や研究所、営業部門など、普段お客様と接する機会の少ない従業員にも、お客様の「生の声」に触れる機会を設けるものです。個人情報が出ないように編集されたお客様の声を聴くことで、時に生じる「お客様との意識のギャップ」に気付いてもらい、今後の「お客様起点での活動」につながる意識改革のきっかけとするのがねらいです。

2012年から全国の事業場で順次開催を始め、2013年には、すべての生産拠点と研究所、そして主要営業拠点でも開催しました。



お客様の声を聴く会



サッポロワイン(株)
岡山ワイナリー
副工場長

中井 宏彰

お客様の「生の声」を聴き、私たちがへの期待を実感しました。

「お客様の声を聴く会」で実際にお客様の気持ちがかもった「生の声」を聴き、商品への「愛着」や「期待」がこめられていることを実感しました。そして「まだまだやれることがある」とも感じました。今後もワインという商品を通して、お客様の期待を喜びに変えていきたいと思えます。

重要課題
★1
食と空間の
品質における
CSR

重要課題
★2
地球環境の
保全における
CSR

重要課題
★3
社会との
共生における
CSR

重要課題
★4
取引に
おける
CSR

重要課題
★5
人財と職場
環境における
CSR

重要課題
★6
健全な企業
経営のための
CSR

施策 2

**お客様センターの実務を体験することで
お客様のご要望をより深く体感**

営業や製造、研究開発に携わる従業員が、お客様からのお電話に直接対応することで、「お客様起点」で行動するための「気付き」を得ることを目的に、「お客様センター半日体験会」を開催しています。当日は、ロールプレイングや発声練習などの後、お客様センターのスタッフがトレーナーとしてサポートしながら、お客様からの電話に対応します。

この取り組みは2012年から2013年までに11回実施され、延べ25名の従業員が体験しました。また、お客様の目線を学ぶことを目的に、2013年7月には、消費者庁の職員3名も、同内容の体験会に参加されました。



お客様センター半日体験会



サッポロビール(株)
営業本部
デジタルマーケティング室

田口 尚子

**体験会で学んだことを
日々の仕事に活かしたい。**

体験会では、お互いの顔が見えないなかで、こちらの立場をご理解いただきつつ、いかにお客様の真意を汲みとるかを、お客様センターのスタッフに教えてもらいました。私は通販サイトの運営を担当しており、お客様とやりとりする機会もあるので、この経験を毎日の仕事に活かしていきます。

Close up

**お客様からのご要望にお応えて、
限定商品を通年商品に。**

サッポロビールは、2013年4月、「男梅」などキャンディ商品で知られるノーベル製菓株式会社様とコラボレーションしたRTD*商品「男梅サワー」を数量限定で発売しました。発売直後から、お客様センターに「どこで買えるのか」とのお問い合わせが入り始め、販売が終了した5月中旬以降は、再発売を希望する声が多く寄せられました。同年夏までに、合計200件超という、同社のRTD商品としては最大の声をいただきました。



これらの声は統計化され、担当役員、さらには経営会議にも報告された結果、早速9月から「男梅サワー」を通年商品として発売することが決定しました。再発売後わずか2週間で販売計画を突破し、当初の3倍以上修正した計画も、12月末までに達成しました。「しよっぱい旨さ」という既存のRTDにはない味わいを、多くのお客様にご支持いただいた結果と理解しています。

* RTD: Ready to Drinkの略。栓を開けてそのまま飲める低アルコール飲料の総称。



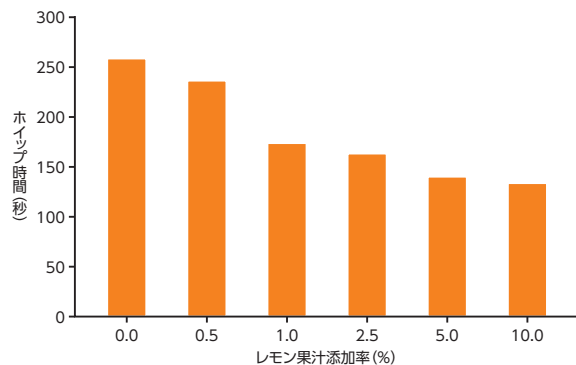
食品・飲料事業の取り組み 活動テーマ:喜んでいただける品質の追求

レモン果汁の調理機能に着目し 利便性を高める使い方を提案

ポッカサッポロフード&ビバレッジでは、長年主力商品として扱ってきた「レモン」の新しい価値を発掘し、お客様にお伝えすべく、さまざまな研究を行っています。

2013年は、生クリームにレモン果汁を加えることで、ホイップクリームの作成時間を短縮できるメカニズムを解明。併せて、レモン果汁の添加量を調整することで、さまざまな用途に適したホイップクリームをつくれることも明らかにしました。これらの成果を、「日本調理科学会」や「果汁技術研究発表会」で発表しました。今後もレモン果汁の新しい使い方を提案することで、お客様に「便利さ」と「おいしさ」をお届けし続けます。

ホイップ時間とレモン果汁の添加量の関係



今回の研究で、生クリームにレモン果汁を10%添加すると、ホイップ時間が100秒以上も短縮できることがわかりました。



国際事業の取り組み 活動テーマ:安全・安心な品質の提供

ベトナムの現地ビール工場が 品質マネジメントシステムの国際規格の認証取得

サッポログループでは、世界各地の現地工場で品質を管理する仕組みの確立に努めています。

2011年に操業を開始したサッポロベトナム・ロンアン工場では、2013年12月に、品質管理に関する国際標準規格であるISO9001の認証を取得しました。取得にあたっては、製造、パッケージング、エンジニアリング、品質管理など、各部門から選出した現地スタッフが主体となってシステム構築を進めました。

同工場はベトナムで最高品質のビール製造をめざしており、今回の認証取得がゴールではなく、このシステムを活用して、品質レベルのさらなる向上に努めます。



当初はISO9001に対する知識や経験に乏しかったものの、花澤工場長の指揮のもと、一丸となって取り組むことで、一つずつ課題を乗り越え、認証取得を実現しました。



外食事業の取り組み 活動テーマ:安全・安心な品質の提供

食材のトレーサビリティを高める 受発注システムを全国の店舗に導入

サッポロライオンでは、信頼できる食材の調達を目的に、自社独自の受発注システム「Net-SAM」を開発。2011年に首都圏の店舗から順次導入を開始し、2014年2月に全国導入が完了しました。各店舗は、このシステムに登録されている食材を使用することを基本としています。

こうした食材の情報管理の強化・徹底により、トレーサビリティが向上し、より安全で信頼性の高い食材の提供につながると考えています。また、今後はこのシステムに料理のレシピを登録し、店舗における正しい食材使用の確認にも活かしていく予定です。



「Net-SAM」は、原料原産地、原材料名、アレルギー特定原材料7品目や推奨品目18品を入力した「商品企画情報」がなければ、食材を登録できない仕組みとなっています。



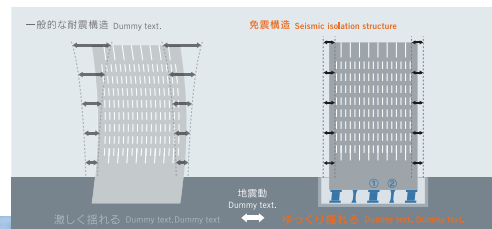
不動産事業の取り組み 活動テーマ:安全・安心な品質の提供

災害時における事業継続を支える さまざまな対策を実施

サッポロ不動産開発は、安全・安心な施設づくりの一環として、入居テナントに対する災害発生時の事業継続支援を推進しています。

2014年10月に開業20周年を迎える恵比寿ガーデンプレイスでは、非常用発電設備を増設し、災害発生時の電力供給体制を整備しました。2014年9月に竣工予定の「(仮称)サッポロ恵比寿ビル」でも、大型の非常用発電機を設置するほか、免震構造の採用により国内規格で最上級の「耐震グレードI類」を取得しました。

こうしたハード面の取り組みに加え、防災訓練の実施などソフト面での対応も進めています。



(上)「(仮称)サッポロ恵比寿ビル」の免震構造
(下)恵比寿ガーデンプレイスに増設した非常用発電設備は、オフィステナント向けに最大72時間の電力供給が可能。

地球環境の保全におけるCSR

サッポログループは、すべての事業分野で環境負荷の低減に取り組んでいます。その取り組みは、「低炭素社会の実現」「循環型社会の実現」「自然共生社会の実現」の3つをテーマとして、全従業員参加で実施しています。



国内酒類事業の取り組み

活動テーマ：低炭素社会の実現・循環型社会の実現

樽生ビール品質管理システム「サッポロセパレシステム」で“おいしさ”と“エコ”を同時に実現

サッポロビールは、ビールラインをまるごと交換できるビールライン分離型サーバーを開発し、飲食店から回収したビールラインを専用のメンテナンスセンターで一括洗浄する「サッポロセパレシステム」を2002年から導入しています。

このシステムは、ビールラインの衛生管理を向上させることで、樽生ビール本来のおいしさを提供すると同時に、環境面にも配慮した取り組みです。従来は冷却部かビールラインのどちらかが故障すれば、サーバー全体を廃棄せざるを得なかったのですが、本システムでは、故障箇所のみを交換できるため、廃棄物およびCO₂の削減につながります。導入から10年間での環境成果を検証した結果、1,779トンの廃棄物抑制および6,561トンのCO₂排出抑制効果を確認しました。

今後も、システムの継続的な改善を通して、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

受賞実績

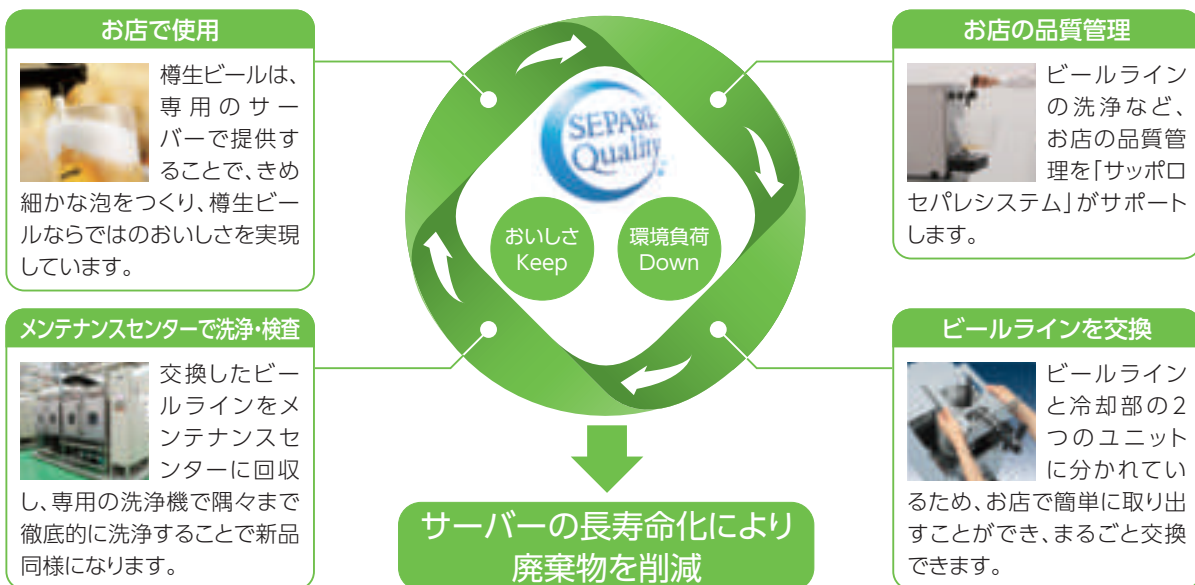
クリーン・ジャパン・センター会長賞

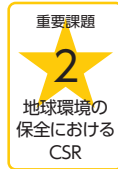
資源の再生、再資源化による循環型社会の構築への貢献が評価され、2009年、「資源循環技術・システム表彰」において、「クリーン・ジャパン・センター会長賞」を受賞

エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）

品質向上と同時に廃棄物抑制による環境負荷の低減効果を実現したことが評価され、2011年、「第8回エコプロダクツ大賞」において、エコプロダクツ部門「エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）」を受賞

サッポロビール独自のサッポロセパレシステム





不動産事業の取り組み 活動テーマ:低炭素社会の実現

建設中の「(仮称) サッポロ恵比寿ビル」に「エコシャフト」を採用

サッポロ不動産開発は、自然の力を活かし、環境への負荷を減らしたエコフレンドリーオフィスの実現に取り組んでいます。2014年9月に竣工予定の「(仮称) サッポロ恵比寿ビル」では、屋上から自然光を取り込んで各フロアに届ける「エコシャフト」を採用。エコシャフトの働きにより、環境負荷を低減しながら、光があふれ、自然の風を感じられるオフィス空間が実現します。

同ビルでは、このほかにも省電力設備などによる空調・照明コストの低減をはじめ、ビルの隅々まで環境への配慮を徹底しており、入居するお客様の環境価値向上に貢献します。



事務室内の壁面に設けられた約8m×1mの吹き抜け空間を通じて、窓からの光が届かないエリアにも自然光を届けます。また、自然換気装置によって事務室内に流入した外気を、排気する機能も担っています。



サッポログループの取り組み 活動テーマ:低炭素社会の実現

気候変動情報開示に優れた企業として「CDLI」に2年連続で選定

サッポロホールディングスは、国際環境NGO「CDP」が2013年に実施した温室効果ガスの排出量や気候変動への戦略に関する調査である「CDP投資家質問書」で、気候変動情報開示先進企業を意味する「CDLI (Climate Disclosure Leadership Index)」に、食品業界から唯一、2年連続で選定されました。

この評価は、当社がグループをあげて環境保全に取り組んできたことや、ステークホルダーへの気候変動に関する情報開示の姿勢などが評価されたものと考えています。今後もグループ全体で、積極的な情報開示を継続していきます。



CDPIは世界の主要企業を対象に、気候変動への戦略や温室効果ガスの排出量に関する調査を実施しています。当社は、日本の大手企業500社のうち、食品業界から唯一、CDLI 24社に選定されました。



食品・飲料事業の取り組み 活動テーマ：自然共生社会の実現

森林育成に役立つ紙容器「カートカン」を普及促進

ポッカサッポロフード&ビバレッジは、森林保全に貢献するため、1996年に間ばつ材を活用した「カートカン」商品の発売を開始しました。同商品は森林育成と地球温暖化防止につながるとして、2003年から林野庁の推奨を受けています。また、売り上げの一部を緑の募金に寄付しており、2013年からは農林水産省の「国産材利用促進の為に木材利用ポイント制度」にも採用されています。

また同社は、2004年の「もりかみ協議会（森を育む紙製飲料容器普及協議会）」の発足にも中心的な役割を果たしており、2013年5月で10周年を迎えた同協議会は、参加企業が54社にまで拡大しています。



「もりかみ協議会」の10周年総会で協議会会長としてあいさつする、ポッカサッポロフード&ビバレッジの堀前社長。



「カートカン」は、間ばつ材（森林の保全・育成に欠かせない「間ばつ」の過程で発生した木材）を含む国産材を30%以上使用した紙製容器です。



国内酒類事業の取り組み 活動テーマ：自然共生社会の実現

地域の子どもたちとともに自然保護活動を開催

サッポロビール那須工場では、生物多様性保全活動の一環として、2013年9月、地域のお客様や従業員とその家族を対象に、那須地域に生育する外来植物の「オオハンゴンソウ※」駆除活動と昆虫調査を開催しました。

当日は、生物多様性保全の大切さや、生態系への悪影響が懸念される特定外来生物についての勉強会の後、植物の葉を観察しながら「オオハンゴンソウ」の駆除活動を実施しました。その後、那須野が原を一望できる小丸山園地へ移動し、昆虫調査を行いました。大人も子どもも一緒になって付近に生息する昆虫を探し、合計11種類を確認することができました。



環境省那須自然保護官事務所やボランティア団体「那須の道を美しくする100人の会」のご協力のもと、子どもたちの笑顔が一杯の楽しい1日となりました。

※ 外来生物法により特定外来生物に指定されている植物

重要課題
★1
食と空間の
品質における
CSR

重要課題
★2
地球環境の
保全における
CSR

重要課題
★3
社会との
共生における
CSR

重要課題
★4
取引に
おける
CSR

重要課題
★5
人財と職場
環境における
CSR

重要課題
★6
健全な企業
経営のための
CSR



外食事業の取り組み 活動テーマ:循環型社会の実現

「食品リサイクルループ」を実現し 福岡地区で監督官庁の認証を取得

サッポロライオンでは、食品リサイクル法にもとづき、食品残さの削減に取り組んでいます。また、食品廃棄物のリサイクルを推進するため、再生利用事業計画認定制度である「食品リサイクルループ」の取り組みを推進しています。福岡の2店舗においてテスト導入を開始し、2013年2月に農林水産省・厚生労働省・環境省の認定を受けました。

現在、首都圏においても、首都圏物流センターを効率的に利用しながら、2015年をめどに食品リサイクルループの導入をめざした取り組みを進めています。



環境中期目標ハイライト

サッポログループは、2012年に「サッポログループ 2015環境中期目標」を策定し、その目標達成に向けて、グループ各社が連携して取り組んでいます。

「低炭素社会の実現」に向けて、2012年のCO₂排出原単位は、2009年を100とすると98になりました。目標達成に向けて、エネルギーの使用効率は順調に改善

されています。

また、「循環型社会の実現」に向けて、工場における副産物・廃棄物の再資源化率は、前年に引き続き100%を維持しています。これに満足せず、営業拠点での取り組みやグループ全体で廃棄物の量を減らすことにも取り組んでいきます。

CO₂

目標	2012年実績
2009年比で 2015年までに CO ₂ 排出原単位を 7%削減 <small>(CO₂排出量:1.8万トン相当)</small>	2009年比 2%削減 <small>(1.4万トン削減)</small>

廃棄物

目標	2012年実績
2015年までに全工場の 副産物・廃棄物の 再資源化 100%達成と維持	再資源化率 100%を維持

社会との共生におけるCSR

地域とのつながりを大切にしながら発展してきたサッポログループは、事業を営むあらゆる地域の活性化に貢献すべく、さまざまな活動を展開しています。一方、酒類事業を展開する企業グループの責任として、お酒を楽しく健康的に飲んでいただくために、「適正飲酒」の啓発活動を続けています。



サッポログループの取り組み 活動テーマ：地域社会への貢献

3つの重点テーマを掲げ、東北の復興支援活動を推進

サッポログループは、2011年3月11日の東日本大震災の発生直後から、被災地への復興支援活動を開始しました。2012年からは、サッポロビール東北本部内に「東北未来プロジェクト」を設置し、①物産品の消費促進、②情報発信、③次世代育成の3つを重点テーマとして掲げ、被災地のニーズに即した支援活動を行っています。

復興支援活動における3つの重点テーマ

物産品の消費促進

東北の物産品の消費を促進することで、東北の経済・生活を応援します。

情報発信

全国の方々が、東北をいつも意識できるような情報を発信します。

次世代育成

東北の将来を担う若い世代の方々に支援します。

代表取締役社長兼グループCEOが「みやぎ絆大使」に就任

サッポログループの宮城県への取り組みが認められ、2013年1月1日、サッポログループCEOの上條 努が、宮城県から「みやぎ絆大使」を拝命しました。

今後とも宮城県、さらには東北全体の経済活性化の支援に取り組み、一日でも早い復興の一助となれるよう力を尽くします。



(右から)上條社長と村井宮城県知事、宮城県観光協会キャラクター「むすび丸」

テーマ 1 物産消費

東北産ビールと社員旅行を通じて地元の物産消費に貢献

サッポロビールでは、2013年に東北産のホップを使用したビールを発売し、その売り上げの一部を、被災地に花を咲かせる「スマイル東北プロジェクト」に寄付しました。また、2013年2月には、恵比寿ガーデンプレイスで開催された、気仙沼の物産を首都圏の流通関係者などに紹介する「三陸気仙沼の求評見本市」に協力しました。



東北産ホップを使用した「サッポロ麦と東北ホップ」「サッポロ生ビール黒ラベル東北ホップ100%」

テーマ 2 情報発信

イベントのPRを通じて全国に東北の“今”を発信

サッポロビールは、「仙台・宮城デステーションキャンペーン」に賛同し、地元のシンボル伊達政宗像をデザインした「サッポロ生ビール黒ラベル」を限定発売しました。また、仙台の冬の風物詩「SENDAI光のページェント」を、恵比寿麦酒祭*の会場で再現するとともに、LED電球4万個相当の200万円を寄付しました。



「SENDAI光のページェント」点灯式

* 地域との共生を目的に2009年より、エビスビール発祥の地である恵比寿ガーデンプレイスにて開催。



テーマ 3 次世代育成

東北の将来を担う 子どもたちの成長を支援

サッポログループは、「恵比寿麦酒祭」での生ビールの全売上金など約900万円を、被災地でコラボ・



大槌臨学舎でのワークショップ

スクール(放課後学校)を運営する認定特定非営利活動法人NPOカタリバに、日本財団を通じて寄付をしました。加えて11月には、コラボ・スクールの一つ、岩手県大槌町の「大槌臨学舎」において、新校舎開所式の一環で行われたワークショップに、CSR社会環境グループの担当者2名がプレゼンターとして参加。現在の仕事内容や、中高生の時の自分を振り返って「今の中学生に伝えたいこと」を語りました。

またサッポロビールは、2013年2月、特定非営利活動法人日本の森バイオマスネットワークが運営する「手

のひらに太陽の家プロジェクト」に対し、2012年に限定販売した「サッポロ生ビール黒ラベル東北夏祭り缶」などの売上金



「手のひらに太陽の家プロジェクト」のスタッフの方とともに

の一部約200万円を寄付。東北産の木材と自然エネルギーを活用した復興共生住宅の建設や被災した子どもたちの支援に役立てていただいています。

さらに、サッポロホールディングスは2013年7月、津波による塩害を受けた杉を活用して、グラウンドの整備に使用する「トンボ」800本を被災地の小中高校などへ寄贈する活動に協力し、株主優待制度を通じた寄付金と同額を加えて、合計約300万円を一般社団法人「被災地ネットワークPLUS」に寄付しました。



南三陸町の子どもたちへのトンボ贈呈式



サッポロビール(株)東北本部「東北未来プロジェクト」担当部長
梅里 俊彦

サッポロらしい東北復興支援を、継続して取り組んでいきます。

東北復興支援にあたっては、さまざまな被災地を訪問し、自治体の関係者や地域住民の皆様の手話を直接お聞きがいて、「本当に必要とされている支援は何か」を考えながら活動しています。そうしたなかで、今、必要だと考えているのが、被災地が再び産業を興し、自立するための支援であり、東北地方の将来を担う子どもたちへの支援です。

サッポログループは、「恵比寿ガーデンプレイス」の情報発信力を活かして、東北のさまざまな観光や物産などを広く世間にアピールするとともに、東北の子どもたちが普通に勉強できる場を提供する活動への支援などに取り組んでいます。これからも、被災地の経済の活性化と、子どもたちの笑顔につながる支援活動を続けていきます。



不動産事業の取り組み

活動テーマ: 地域社会への貢献

地域文化の活性化に貢献する 「恵比寿文化祭」を継続的に開催

「恵比寿ガーデンプレイス」の周辺地域には、そこに住み、そこで働く人々によってつくられてきた独自の文化が根付いています。サッポロ不動産開発は、こうした恵比寿の文化をさらに活性化させ、地域の発展・振興に貢献するために、2011年から毎年、10月中旬の3連休に恵比寿ガーデンプレイスを会場に、「恵比寿文化祭」を開催しています。このイベントは、恵比寿を拠点に活躍する、芸術、音楽、ダンス、ファッション、映像など、多様な分野の方々や団体にご協力とご出演をいただき、日頃の活動の成果を披露いただくものです。

3年目となる2013年は、前年を上回る11万3千人ものお客様が来場され、ステージや展示、ワークショップなどさまざまな舞台で恵比寿の「文化」を体感し、楽しんでいただきました。

今後も、地域文化の担い手とのコラボレーションを継

続し、2014年の「恵比寿文化祭」はもとより、恵比寿ガーデンプレイスを、より地域に開かれた施設にしておくためのイベントを開催していきます。

Voice



特定非営利活動法人
シブヤ大学
学長

左京 泰明

なぜ「恵比寿文化祭」に人が集まるのか? “楽しい” からである。

ふと都会にいることを忘れるくらい穏やかな時間が流れる傍らで、人の表現が生む熱を感じる。そして、観客としてだけでなく、演者として楽しむこともできる。

そんなすべての楽しみがギュッと詰まった3日間。その風景は、恵比寿ガーデンプレイスのこれからの青写真に違いない。(企画協力者代表)



恵比寿発の先端ファッションを紹介する「恵比寿コレクション」 photo by yuki ishii



間ばつ材を使ってアクセサリーづくりなどを楽しむ「木育」ワークショップ



子どもから大人まで多数参加した「I WE LOVE 恵比寿音楽祭」



地域のバレエスクールの系列バレエ団によるデモンストレーション



国内酒類事業の取り組み 活動テーマ:適正飲酒の啓発活動

北海道警察と連携して 飲酒運転撲滅キャンペーンを実施

サッポロビール北海道本社では、2013年3月の「春の交通安全週間」に、北海道警察中央警察署と協働で「ホワイトデー『飲酒運転なめたらイカン!』キャンペーン」を実施しました。

交通安全週間の開始前日となる3月14日(ホワイトデー)に、札幌駅地下街において、ノンアルコールビールテイスト飲料「サッポロプレミアム アルコールフリー」とキャンディーをセットにして配布しました。ラッピングの中には「飲酒運転しない!させない!」「広げよう!ハンドルキーパー」などと記載されたリーフレットを封入し、飲酒運転撲滅やハンドルキーパー運動を呼びかけました。



警察官の方々と北海道本社の従業員が協力して通行人に配布し、飲酒運転の撲滅を呼びかけました。



外食事業の取り組み 活動テーマ:適正飲酒の啓発活動

全店舗で、お客様への 適正飲酒啓発活動を推進

サッポロライオンでは、レストランやビヤホールなどのドリンクメニューに、未成年者飲酒防止や飲酒運転防止などの適正飲酒を訴えるメッセージを掲載しています。また、お車や自転車などで来店されたお客様や、明らかに未成年者または妊産婦とわかるお客様がアルコール飲料を注文された際には、「アルコール飲料は提供できない」旨をお伝えし、絶対に注文に応じないよう徹底を図っています。さらに、万が一お客様が店内で急性アルコール中毒になられた場合に備えて対応マニュアルを作成し、全店に配布しました。



ドリンクメニューに「適量飲酒推奨」「飲酒運転禁止」「未成年者飲酒禁止」「妊産婦飲酒防止」などを掲載しています。



「STOP!未成年者飲酒」と「STOP!飲酒運転」のポスターを店内に掲示しています。

取引におけるCSR

お客様先やサプライヤーなどのお取引先との取引にあたっては、公平・公正で自由な取引を基本とし、お互いのパートナーシップにもとづく持続的な発展をめざしています。

また、自社だけでなく、サプライチェーンにおいても

「法令・社会規範」や「環境保全」に配慮すべく、「CSR調達」の徹底を図ります。



サッポログループの取り組み

「グループ調達基本方針」を制定

サッポログループは、グループ全体で調達活動の最適化を図っていくために、2012年、サッポログループマネジメントに「グループ調達部」を設置しました。

さらに2013年には、「グループ調達基本方針」を制定し、全事業会社で共有するとともに、国内の全サプライヤーに周知しました。この方針は、各事業会社の調達セクションのみならず、サッポログループで働くすべての従業員を適用対象としています。

なお、方針の全文は、サッポロホールディングスのWebサイトに掲載しています。

http://www.sapporoholdings.jp/csr/buying_policy/index.html

サッポログループ調達基本方針

私たちは、グループ企業行動憲章に則り、お客様に支持される高品質な製品・サービスを提供するため、より安全で安心な原料、資材、物品、サービス等の調達を行います。

公平・公正なお取引を通じてお取引先様とのパートナーシップを構築していきます。

環境保全やCSRの取り組みにおいても、お取引先様のご協力を得ながら積極的に推進していきます。

(以下、項目のみ抜粋)

1. お客様本位・品質本位
2. 公正かつ透明なお取引
3. お取引先様との信頼関係の構築
4. 法令、社会規範の遵守
5. 環境保全



国内酒類事業の取り組み

サプライヤーのCSR活動状況を確認する評価活動および交流会を実施

サッポロビールは、主要サプライヤーを対象に、ISOの認証取得状況やCSRへの取り組み状況をアンケートによって確認する「サプライヤー評価」を毎年実施しています。

また、とくに取引規模が大きい容器包装資材のサプライヤーに対しては、「サプライヤー交流会」を実施しています。これは、購買部員や製造部員、工場のパッケージング担当者などがサプライヤーを訪問して意見交換を行い、CSRの取り組み状況や品質管理、従業員教育などを詳しく確認するものです。2013年は、製缶メーカー4社・13工場で開催しました。



大和製罐株式会社
営業第3部 営業第1課
課長

角本 和哉 様

交流会は、課題共有のための貴重な機会になっています。

近年、納品先のメーカーから、弊社のCSRへの取り組み状況の確認を求められることが増えています。

サッポロビールさんの「サプライヤー交流会」は、CSR面に加えて、工場などのご担当者や弊社製品の品質などについても率直な意見交換ができ、課題を共有する貴重な機会となっています。



国内酒類事業の取り組み

持続可能な農業をめざして フィールドマン全員がJGAP指導員の資格を取得

ビールの主原料である麦芽とホップの100%協働契約栽培を達成しているサッポロビールでは、原料の専門家である「フィールドマン」が、毎年、世界各国の産地に直接赴き、現地の原料メーカーや生産者とともに安全・安心で高品質な原料の安定供給に取り組んでいます。

2013年は、フィールドマン全14名が日本GAP (Good Agricultural Practice) 協会が認証する指導員資格を取得するとともに、GAPの要求基準の一部を協働契約栽培にも取り入れました。今後は、原料の安全性や品質はもとより、工程上の衛生管理や環境保全にも配慮した、持続可能な農業モデルの確立をめざします。



カナダの大麦田で、生産者と打ち合わせをするフィールドマン。サスカチュワン大学などと共同で開発した「CDC PolarStar」は、ビールの味や香りを劣化させる酵素をもたない大麦で、「首さ長持ち麦芽」として「黒ラベル」を中心に使用しています。



外食事業の取り組み

調達に関する コンプライアンス研修を実施

サッポロライオンは、サプライヤーに公平・公正なビジネス機会を提供し、定められた方針や手順に従って調達活動を行っています。その一環として、2013年には、役員や商品部の担当者のみならず、本社や全店舗の責任者を対象に研修を実施し、独占禁止法(独禁法)や下請代金支払遅延等防止法(下請法)の遵守について、改めて周知・徹底を図りました。

今後も、商品部の担当者には年に1回の外部セミナーや講習会への参加を義務づけるとともに、全社的な取り組みとして定期的に社内の教育ツールやeラーニングを用い、コンプライアンス教育を推進していきます。



研修会では、独禁法における優越的地位の濫用行為の禁止や、下請法における禁止事項について、具体的な事例を交えて説明しました。

人財と職場環境におけるCSR

サッポログループでは、すべての従業員を会社の財産である「人財」と位置づけ、働きやすく快適な職場環境の整備に取り組んでいます。

また、従業員一人ひとりがもつ強みを最大限に発揮してもらえるよう、主体的なキャリア形成を支援するとともに、従業員の多様性を活かせる組織づくりを進めています。



外食事業の取り組み

活動テーマ：働きやすく快適な職場環境の実現・一人ひとりの実力発揮と、組織の多様性の実現

お店を支える従業員のモラル&モチベーション向上へ

外食事業には、他の事業とは異なる大きな特徴が二つあります。一つは、従業員構成においてパート・アルバイトの雇用比率が高いこと。もう一つは、従業員とお客様が対面で接する場面が非常に多いということです。そこでサッポロライオンでは、正社員のみならず、店舗で働くすべての従業員が会社やお店の「顔」であり、お客様に「喜び」を提供するための源泉であるという考えのもと、個々のコンプライアンス意識の向上と、力を発揮できる働きやすい職場環境づくりをめざした取り組みを進めています。



施策 1

アルバイトも含めた全従業員にコンプライアンスの意識を浸透

外食事業では、店舗数が多く、勤務時間もシフト制が基本であるため、集合研修による教育・啓発が困難です。そこで、店内ミーティングなどを利用し、短時間でコンプライアンス上の問題を学べるよう、独自のCSR教材「ライオン日和」を月1回発行。その時々をテーマを、4コマ漫画でわかりやすく解説するとともに、テーマに合わせたeラーニングも開催しています。また、ミーティングでの意見交換を通じて、各人の日頃の言動を再確認すると同時に、コミュニケーションを活発にして、働きやすい職場環境づくりにも役立っています。



ライオン日和



ビヤダイニング
銀座ライオン
アートヴィレッジ大崎店
(アルバイトスタッフ)
宮田 翔多

店舗内だけでなく、社会で役立つ大切な意識が身につきます。

「ライオン日和」は、法令を守るためのポイントが簡潔にまとめられており、これを読みながら店舗の方々や意見を出し合うことで理解を深められます。コンプライアンス徹底は、店舗内だけでなく、広く社会で守るべき大切な事柄です。職場で学ぶ機会をもてたことが、私の人生にもプラスになっています。



施策 2

チェーン全体で一体感を生み出す ビール工場見学研修

異なる職場や店舗に勤務する従業員同士のつながりを深め、一体感を生み出すため、会社の支援のもと、地域ごとにクラブ活動やレクリエーション活動を実施しています。

さらに、2013年9月からは、従業員同士の出会いと触れ合い、また「生ビール」の商品知識を深めることを目的に、客席・調理など各部署の従業員を集めて「サッポロビール那須工場見学研修」を開催。職場や年齢、立場を超えて、同じ時間と研修内容を共有することで、横のつながりを形成し、チェーン全体のチーム力を強化するとともに、従業員の意欲を喚起しています。



那須工場見学研修



銀座ライオン
安具楽 新宿店
(客席社員)

鳴海 花菜

工場見学研修で、職場に 活かせる経験を積めました。

他店や本社の方との交流の機会が少なく、勤務する店舗だけを自分の世界と捉えがちになっていました。工場見学研修に参加したことで多くの仲間がいることを改めて実感しました。また、実際にビールづくりの工程を目にすることで、お客様に自信をもって説明できるようになりました。

サッポロライオンの人財育成

100年以上にわたって培ってきた
“不変の真心サービス”を提供し続ける。

外食産業とは「人財集約型産業」であり、多様な思いをもった従業員の集合体です。従業員対お客様、従業員対取引先、従業員対従業員と、どの職場においても、すべてに「人」がかかわり、この「人」の力によって、会社が存続してきたといっても過言ではありません。それゆえ、時代とともに変容するお客様のニーズや店舗のあり方に的確に対応できる「人財」を育てることが、私たちの使命だと考えます。

これまで培ってきたお客様の笑顔や喜びにつながる「不変の真心サービス」を大切に、パート・アルバイトを含め多方面にわたる教育・啓発活動を推進することで、全社的なサービス品質の向上に努めます。



(株)サッポロライオン
取締役執行役員
人事総務部長

若林 善則



食品・飲料事業の取り組み 活動テーマ：一人ひとりの実力発揮と、組織の多様性の実現

“コーヒーのプロ”を育てる社内資格制度を開始

「カフェ・ド・クリエ」を運営するポッカクリエイトは、“コーヒーのプロ”を育てる社内資格制度「シルバースプーン」を2013年3月に開始。コーヒーに関する知識を学ぶクラスと、抽出技術やプレゼンテーション力を磨く実技中心のクラスを設けました。各クラスの講座は、東京本社での開講に加えて、各エリアでもオンラインにより、同時に受講が可能です。これら受講者を対象に、2013年10月には筆記や抽出の実技などの資格試験を実施し、15名が合格しました。この制度によって、お客様の好みに合ったコーヒー豆の提案販売が、さらに促進されるものと期待しています。



資格試験合格者は銀色のスプーンを模したバッジを付けて接客するほか、各店舗で従業員の指導や、お客様向けコーヒースクールの講師なども担当計画です。



国内酒類事業の取り組み 活動テーマ：一人ひとりの実力発揮と、組織の多様性の実現

女性従業員のキャリア形成を支援する「女性営業フォーラム」を開催

サッポロビールでは、2013年10月に「女性営業フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、「営業のおもしろさ」「ステップアップの選択肢」「営業スキル・スタンス」などへの“気づき”を得ることや、社内外の女性営業ネットワークの形成などを目的としたものです。

フォーラムでは、社外からさまざまな業界・役職の現役女性営業担当4名をパネリストに招いて、「信条」「営業のおもしろさ」「飛躍の契機になった経験」「仕事とプライベート」「育児期の部下への配慮」など、多様な切り口からお話しいただきました。参加者一人ひとりが多くの“気づき”を得たフォーラムとなりました。



53名の参加者からは、「同じ商品でも、売る人によって価値が違う、という言葉が印象的だった」「男性上司が今、どう考えているのか汲み取る、という言葉が心に残った」など、さまざまな“気づき”を得たと好評でした。



国際事業の取り組み 活動テーマ:一人ひとりの実力発揮と、組織の多様性の実現

海外の現地従業員を対象に日本での研修を実施

サッポロインターナショナルでは海外各社の現地従業員に対する教育に注力しています。その一環として、営業系や技術系をはじめ多様な職種の従業員を日本に派遣して、研修を行っています。

2013年は、カナダのスリーマンから5名、サッポロベトナムから2名の技術系の従業員を受け入れ、サッポロビール本社の製造部門、品質管理部門や各工場において研修と交流を行いました。

今後もさまざまな職種の従業員を対象に日本での研修を行い、交流を活性化させることで、サッポロのおいしさを広く世界に伝えていきます。



研修生が日本と現地との違いを肌で感じ、現地に持ち帰って新しい提案を行うなどの効果があがっています。また、受け入れる日本の従業員も新たな気付きを得るなど、相乗効果も出ています。



食品・飲料事業の取り組み 活動テーマ:一人ひとりの実力発揮と、組織の多様性の実現

新会社の経営ビジョン浸透のためのワークショップを開催

2013年1月に経営統合により誕生したポッカサッポロフード&ビバレッジでは、新たに掲げた「経営ビジョン」に「3つの力」と従業員の行動指針となる「5つの約束」を掲げています。

これらを従業員が自らの言葉や体験に置き換えて理解し、日々の企業活動のなかで実践していくため、全従業員を対象としたワークショップを開催しました。2013年1月からスタートし、約3カ月にわたり、全国各拠点でくまなく開催され、プログラムの最後には、今年中に達成すべき行動目標を個人レベルまで落とし込み、その目標を全員が宣言しました。



「3つの力」を使った成功体験と今後の強化すべき力、また、「5つの約束」に沿って考えた改善点をチームディスカッションによって発表しました。

健全な企業経営のためのCSR

サッポログループは、企業経営の健全性や透明性を担保するため、内部統制システムの整備を進めるとともに、ステークホルダーへの適時・適切な情報開示に努めています。また、グループ全体でコンプライアンスの徹底を図るため、従業員に対する教育・啓発を推進しています。



サッポログループの取り組み

活動テーマ：内部統制と情報開示・コンプライアンスの推進

グループ統一の「内部統制システム構築ガイドライン」の制定

サッポログループは、2006年にサッポロホールディングスの取締役会において内部統制システムの構築・運用にかかわる基本方針を定め、「財務報告の適正性を確保する体制」「CSR・コンプライアンス体制」「グループガバナンス・リスクマネジメント体制」という3つの体制づくりに取り組んできました。

2013年10月には、さらに体制を強化するため「サッポログループ内部統制システム構築ガイドライン」を制定しました。今後は、このガイドラインにもとづき、事業会社とその子会社に至るまで内部統制システム構築の基本方針を定めるとともに、ガイドラインに記載されている項目に沿って、内部統制システムの構築・運用を進めていきます。

内部統制システム構築ガイドラインの項目

1. コンプライアンスに関する体制
2. 重要な情報・記録の保存・管理に関する体制
3. リスクマネジメントに関する体制
4. コーポレートガバナンスに関する体制
5. 企業集団における内部統制体制
6. 監査役への報告に関する体制
7. 監査役の監査の実効性を確保するための体制



サッポログループの取り組み

活動テーマ：内部統制と情報開示・コンプライアンスの推進

グループ内の規程類の整備と従業員への周知徹底

サッポログループでは、従業員が従うべき事項を定めた基本方針や規程などを体系的に整理し、2013年8月に「グループ規程管理規程」を制定しました。また、その内容をグループ全体に広く周知するため、イントラネット上の「規程集」サイトを全面的に刷新し、従業員が常に最新の規程類を閲覧できるようにしています。

今後も必要に応じて規程の見直しや改訂を行っていくとともに、適宜サイトを改善し、規程の内容はもちろん、その目的や背景についても周知徹底を図っていきます。



イントラネットの「規程集」サイトを刷新し、規程類を上下の階層ごとに整理するなど、体系的に閲覧できるよう工夫をほどこしました。



2013年の商品の自主回収、コンプライアンス違反のご報告

商品の自主回収

2013年は、グループ全体で3件の商品などの自主回収がありました。ポッカサッポロフード&ビバレッジの商品では、3月に「とろける魅惑のプリン メルティーキャラメル」で、法令上必要な表示がなされていないことが判明したことにより、10月には炭酸飲料「ビタエネC」で、開栓時にびんの一部が欠ける場合があることが判明し、それぞれ自主回収しました。販促用の景品では、8月にサッポロビールがお客様に発送したオリジナル冷蔵庫と同梱のACアダプターに過熱のおそれがあることがわかり、自主回収しました。いずれもお客様への健康被害はありませんでした。今後は品質管理をいっそう徹底し、再発防止に努めます。

メニュー表示と異なる食材の使用

サッポロライオンでは、11月、メニュー表示に関する一連の報道を契機に、運営する全店舗を対象に社内調査を実施した結果、メニュー表示と異なる食材を使用しているケースがあったことが判明しました。直ちに調査結果を消費者庁に報告するとともにWebサイトで公表し、該当するすべてのメニューについて、販売中止、もしくは表示どおりの食材の使用または適正なメニュー表示への切り替えを実施しました。また、該当メニューをご利用されたとお申し出のあったお客様には、相当額のご飲食券をお送りしました。

また、サッポロビールの子会社である(株)ニュー三幸(小樽市)、(株)新星苑(東京都)でも、メニュー表示と異なる食材を使用しているケースがあったことが判明し、サッポロライオン同様の対策を講じました。

今後は使用する食材とメニュー表示をチェックする体制を強化し、再発防止に努めます。

元従業員による不正行為

サッポロビールにおいて、元従業員による会社資産の私的流用があり、3月に懲戒解雇するとともに、刑事告訴しました。これを受け、経理処理の社内オペレーションを見直すことによってチェックを厳格化するなど、社内の管理体制をいっそう強化しました。

また、4月には外部講師によるコンプライアンスリスクマネジメント研修を実施し、すべての事業場長が受講しました。研修では、想定されるリスクを洗い出し、優先順位づけを行い、対策を講じたうえで、取り組み状況を継続的に点検することの重要性を確認しました。さらに7月には、同様の研修を、ほかの事業会社の経営層を対象に実施しました。



研修の様子

CSR・コンプライアンス推進責任者より

社会からの信頼に応えるため、コンプライアンスをさらに徹底します。

当社ではこれまでも、全従業員に対してコンプライアンスを徹底するべく努めてまいりましたが、残念ながら昨年グループ内において4件のコンプライアンス違反が発生しました。ステークホルダーの皆様の信頼を損ねることとなってしまう、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。

私どもはこれを厳粛に受け止め、再発防止に向け、改めて従業員一人ひとりのコンプライアンス意識の向上のため、教育・啓発をさらに徹底すると同時に、全社的な管理体制の強化を図ってまいります。



サッポロホールディングス(株) グループリスクマネジメント部 部長

大浦 宗彦

CSR重要課題と目標・実績

サッポログループは、2011年に「サッポログループCSR重要課題」と、それにもとづく「中期目標」「アクションプラン」を策定しました。以降、年度ごとに活動を総括し、次年度のアクションプランを見直すPDCAサイクルにより、CSR活動のレベルアップを図っています。*1

サッポログループCSR重要課題		
CSR活動分野	カテゴリー	重要課題
 食と空間の品質におけるCSR	安全・安心な品質の提供	グループ品質方針に則り、安全・安心な品質の商品・サービス・施設空間を提供します。
	喜んでいただける品質の追求	お客様の声に耳を傾け、お客様に喜んでいただける商品・サービス・施設空間を追求します。
 地球環境の保全におけるCSR	—	豊かな地球環境を幾世代にもわたり受け継いでいけるよう、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現に貢献します。
 社会との共生におけるCSR	地域社会への貢献	事業を行う地域社会の一員として、地域との交流を積極的に図り、その発展に貢献します。
	適正飲酒の啓発活動	酒類を扱う企業グループとして、適正な飲酒の啓発と、不適切な飲酒の防止に努めます。
 取引におけるCSR	—	お客様先やサプライヤーなどのお取引先様と、公平・公正で自由な取引を徹底するとともに、お互いの信頼関係にもとづき、ともに持続的な発展をめざします。
 人財と職場環境におけるCSR	—	すべてのグループパートナーの人権を尊重し、安全と心身の健康を確保するとともに、一人ひとりの個性と多様性が活かされる組織風土を醸成します。
 健全な企業経営のためのCSR	内部統制と情報開示	内部統制システムを確実に運用し、グループ経営の信頼性を高めるとともに、株主をはじめとするステークホルダーが必要とする情報を適時・適切に開示します。
	コンプライアンスの推進	法令遵守はもとより、グループ企業行動憲章に則り、正しい価値観や判断基準に従って行動できるよう、啓発と教育を推進します。

*1 関連する国内の諸規程は、サッポロホールディングスおよび国内各事業会社からの出向社員については適用される。海外の事業会社は、アクションプランの対象ではないが、各国・各社の事情に応じたCSR重要課題の中期目標・アクションプランを立て、取り組むこととする。

中期目標とアクションプラン

2014年までの中期目標 (「地球環境の保全におけるCSR」については、2015年までの目標)

- すべての事業会社で「予防型品質保証システム」が確実に導入・運用され、中味品質にかかわる重大リスク案件*2の発生が防止されている(0件)。
- すべての事業会社で、お客様の声や市場調査結果が、商品開発や商品・サービス・施設空間の品質改善・向上に活かされる仕組みとなっている。

低炭素社会の実現

- 2015年までに2009年比でCO₂排出原単位を7%(1.8万トン相当)削減する。

循環型社会の実現

- 2015年までに全工場の副産物・廃棄物の再資源化100%を達成・維持するとともに、工場以外の廃棄物の再資源化率を向上させる。

自然共生社会の実現

- 2015年までに以下の取り組みに着手し、確実に推進する。
 - [1] 地域の生物多様性保全の取り組み
 - [2] 原材料や資源に関する持続可能な利用の取り組み
 - [3] 生物多様性や環境に配慮した商品・サービス提供の取り組み

地域社会への貢献

- 各事業会社の事業場とゆかりのある地域において地域貢献活動と環境保全活動を連動させ、サポロならではCSR活動として実施している。

東北復興支援

- 「物産品の消費促進」「情報発信」「次世代育成」の3つの方針に沿った施策を確実に実施している。

- 社会に対する適正飲酒(未成年者飲酒防止、飲酒運転防止、妊産婦飲酒防止など)の啓発活動を継続的に推進している。

CSR調達の実施と検証

- 「グループ調達基本方針」に則ったCSR調達が継続的に実施されている。
- 主要サプライヤーに対するCSR調達の要請と検証を行っている。

働きやすく快適な職場環境の実現

- 労働安全衛生の推進により、重大な労働災害*3が防止されている(0件)。
- 心因性の疾患による休職者数が増加していない。
- 労働時間管理に関する「コンプライアンス意識調査」のスコアが改善されている(2009年度調査の水準まで)。
- 人権・ハラスメントに関する「コンプライアンス意識調査」のスコアが改善されている(2009年度調査の水準まで)。

一人ひとりの実力発揮と、組織の多様性の実現

- 従業員に成長機会を積極的に提供し、誰もが努力し、強みを発揮できる「働きがいのある職場環境」の実現に向けた取り組みを推進している。
- 性別、年齢、役割、国籍、働き方の違いをプラスに活かせる組織づくりに向けた取り組みを推進している。
- 法定障がい者雇用率を達成している。

内部統制

- 「内部統制システム構築の基本方針」にもとづいた「内部統制システム構築ガイドライン」が制定され、全事業会社で基準に則った体制が構築されるとともに、継続的に改善されている。

情報開示

- 各種法令や規則を遵守し、ステークホルダーに対して、正確な会社情報を、適時かつ適切に開示できている。
- ステークホルダーから見て透明性の高い会社となっている。

コンプライアンスの推進

- 重大なコンプライアンス違反事案*4が防止されている(0件)。
- コンプライアンス意識調査で抽出された課題に対し、施策を実施し、確実に改善が図られている。

行動規範の見直し

- 経営環境の変化や加速するグローバル展開を見据え、グループの行動規範である「サポログループ企業行動憲章」を、社会からの要請により適合したものに改訂する。

2013年のアクションプラン

- 「グループ品質保証体系」にもとづく予防型品質保証システムを構築する。
- 品質に対して感度よく対応できる人財を育成する。
- ノウハウや情報などのリソースをグループ間で共有する。

- すべての事業会社において、PDCAサイクルにもとづく仕組みの構築を推進する。

- 環境保全推進体制を整備し、環境マネジメントを推進する。
- 事業会社ごとにCO₂排出原単位削減に向けた取り組みを推進する。

- 事業会社ごとに再資源化率向上の取り組みを推進する。
- グループ全体の廃棄物管理体制を整備するとともに、内部監査などにより法令遵守状況を確認する。

- 「グループ生物多様性保全ガイドライン」にもとづき、各々の事業特性に応じた取り組みを推進する。

- 各事業会社の事業場とゆかりのある地域において、地域貢献活動、環境保全活動の方向性を確定し、実施する。

- 事業会社ごとに策定された方針に沿って具体的支援策を実施する。

- 国内酒類事業会社の商品開発、マーケティングなどにおいて、「酒類の広告・宣伝及び酒類容器の表示に関する自主基準」にもとづく取り組みを推進する。
- ビール酒造組合と連携した取り組みを推進する。

- 「グループ調達基本方針」を策定・開示し、すべてのサプライヤーに周知する。
- サプライヤーのCSR対応についてアンケートや監査などによる検証を進める。

- 労働安全衛生、適正な労働時間管理について、グループで統一すべき事項を明確化する。
- メンタルヘルスについてのラインケアを強化する。
- パワハラ・セクハラ防止のための管理職向けの研修や従業員教育を継続的に実施する。

- 次世代育成支援とダイバーシティ推進に関する施策をグループ内で共有し、グループで統一すべき事項を明確化する。
- どの層にもチャンスのある人財育成施策を推進する。
- 管理職のマネジメント力を強化する。
- 定年後再雇用に向けた制度の整備を進める。
- 障がい者雇用に向けた取り組みを展開する。

- 「内部統制システム構築ガイドライン」を制定し、各事業会社で社内体制強化と向上の取り組み(PDCA運用)を推進する。

- グループ内の連携を強化し、情報を共有するとともに、法律顧問などと適宜連携し手続き上の不備を防止する。
- グループの情報を早期に把握して、開示するものに対しては周到に準備し、情報管理を徹底する。

- コンプライアンス推進に関する各種取り組み施策を継続的に展開する。
- コンプライアンスキーパーソンの機能を強化する。
- コンプライアンス意識調査の結果、事業会社ごとに抽出された課題解決のための施策を立案・実施する。

- 国連グローバル・コンパクトやISO26000などの国際的規範を参考に「サポログループ企業行動憲章」の改訂に着手する。

*2 お客様の健康に被害を及ぼすおそれのあるもの。 *3 死亡災害、または後遺症の残るもの。 *4 社外に開示する必要があり、企業価値を毀損するおそれのあるもの。

2013年の活動総括と2014年のアクションプラン

2013年の活動総括

- 重大なリスク案件の発生は防止できた(0件)。
 - 予防型品質保証システムのあるべき姿について、事業会社ごとにロードマップの作成に着手した。
 - グループの月例品質会議において、有用となる情報を共有できた。
-
- 「お客様窓口情報交換会」を通じてグループ全体で知見を共有できた。
 - 「お客様の声」起点の商品・サービスの改善・向上活動を実施した。
-
- グループ全体のCO₂排出原単位を2009年比で2%(1.4万トン)削減できた。(2012年度)
 - グループ環境保全委員会によるグループ全体の環境マネジメントを推進した。
 - 各事業会社で環境マネジメントシステムの導入など環境保全推進体制の構築を推進した。
 - 各事業会社の事業特性に応じた施策を実施した。
-
- グループの全自社工場における副産物・廃棄物の再資源化率100%を達成できた。(2012年度)
 - グループ全体の廃棄物管理体制の整備を推進した。
-
- 全ビール工場で自然観察会など生物多様性保全活動を実施した。
 - 食品・飲料事業会社で「カートカン」商品を通じた環境保全への取り組みを実施した。
 - グループ各社の連携により北海道地区でカーボンオフセット付き商品を発売した。
-
- 創業の地、工場の所在地、原料の生産地など、ゆかりの地を中心として累計で全国27の自治体と地域包括協定を締結した。
-
- 「物産品の消費促進」「情報発信」「次世代育成」の3つの方針に沿って、被災した東北3県で、事業会社の特性に応じた取り組みを行った。
-
- 国内酒類事業会社の商品開発、マーケティングなどにおいて、未成年者飲酒防止に関するガイドラインの一部見直しを図った。
 - WHOの適正飲酒に関する採択に、ビール酒造組合と連携して対応した。
-
- 「グループ調達基本方針」を制定し、サプライヤーへの方針説明会で発表するとともに、Web上でも公開した。
 - 国内酒類事業会社において、主要サプライヤーのCSR対応について、アンケートや監査による検証を実施した。
-
- 重大な労働災害は防止できた(0件)。
 - 国内酒類事業会社で実施しているメンタルヘルスクアの仕組み(EAPシステム)を外食事業会社などに展開するための事前準備に着手した。
 - パワハラ・セクハラ防止のための管理職向けの研修やグループ全体でのeラーニングを継続的に実施した。
 - 2013年11月実施の従業員意識調査の結果、パワハラ・セクハラともスコアが若干悪化した。
-
- 新任役職者に対するマネジメント研修を実施した。
 - 障がい者雇用について、国内酒類事業会社では法定雇用率を確保(2.64%)した。それ以外の事業会社については法定雇用率確保に向けた取り組みについて検討を進めた。
 - 国内酒類事業会社において、精神障がい者の雇用率のさらなる向上に向けて、障がい者のインターンシップ受け入れなどの施策を実施した。
-
- 「グループ規程管理規程」を制定し、これにもとづき各事業会社の規程類を整備するとともに、イントラネット上の規程集サイトを全面刷新して従業員への周知を徹底した。
 - 「サッポログループ内部統制システム構築ガイドライン」を制定し、各事業会社とその連結子会社を対象に内部統制基本方針の制定に取り組んだ。
-
- アクションプランに沿った情報開示を継続した。
-
- 重大なコンプライアンス違反事例は4件(国内酒類事業会社元従業員横領、外食事業会社ほか外食3社食材問題)発生した。
- グループ全体で取り組んでいるeラーニングについては、質的向上を図りつつ、年間スケジュールに沿って実施した。
 - 国内酒類事業会社の事業場長およびそれ以外の事業会社の経営層を対象に、外部講師によるコンプライアンスリスクマネジメント研修を実施した。
 - グループの全事業会社・全事業場における責任部署の明確化など、「内部統制システム構築ガイドライン」に適合するコンプライアンス推進体制の構築に着手した。
-
- 「サッポログループ企業行動憲章」の改訂版を制定、開示した。

進捗	2014年のアクションプラン
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● すべての事業会社で予防型品質保証システムを構築し、運用を開始する。 ● 人材育成および情報共有の取り組みを継続する。 ● グループの月例品質会議において、各事業会社の品質リスク分析、把握、低減策の共有化を推進する。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● すべての事業会社において、「お客様の声」起点的活動を継続する。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● 全事業会社における環境保全推進体制の整備を促進する。 ● 事業会社ごとにCO₂排出原単位の削減に向けた取り組みを強化する。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● 全工場における副産物・廃棄物の再資源化率100%を維持する。 ● 事業会社ごとに工場以外の廃棄物の再資源化率のさらなる向上に向けた取り組みを推進する。 ● グループ全体の廃棄物管理体制について整備・強化を進める。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ全体での環境美化活動を推進する。 ● 全ビール工場での生物多様性保全活動を継続する。 ● 事業会社ごとに環境に配慮した商品・サービスの提供などの取り組みを推進する。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● 締結された包括連携協定を軸に、各地域における貢献活動を質・量両面で向上させる。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業会社ごとに3つの方針に沿った施策を中心として、被災地のニーズに応じて継続して取り組む。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内酒類事業会社において、酒類の商品開発・表示・広告のチェック体制の強化と徹底を推進する。 ● 外食事業会社において、メニューなどの表示を通じて、お客様に対する適正飲酒啓発への取り組みに着手する。 ● 大学生の未成年者飲酒防止、アルコール・ハラスメント防止の取り組みを実施する。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続きすべてのサプライヤーに「グループ調達基本方針」の周知徹底を図る。 ● 主要サプライヤーへのCSR調達の検証を、国内酒類事業会社から食品・飲料事業会社へ拡大するための準備を進める。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● 労働時間管理のツールとして、全事業会社で利用できる勤怠管理システムの導入を検討する。 ● EAPシステムの外食事業会社などへの新規導入を進めるとともに、食品・飲料事業会社への拡大も検討する。 ● 全事業会社でメンタルヘルスのラインケアを強化する。 ● 全事業会社へハラスメントの管理職向けの研修を拡大するとともに、グループ全体でのeラーニングを継続する。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● 次世代育成支援とダイバーシティ推進に関するグループ統一施策を明確化する。 ● 全事業会社で管理職が果たすべき役割が理解されるよう、研修の一本化などを検討する。 ● 障がい者雇用について、国内酒類事業会社で蓄積したノウハウをグループ各社で共有する。 ● 2013年11月に実施した従業員意識調査の結果を踏まえ、グループ全体および事業会社ごとに対策を検討、実施する。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● 各事業会社において、「サッポログループ内部統制システム構築ガイドライン」と各社の内部統制基本方針にもとづき、取り組み項目ごとに整備・構築を推進する。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き2013年と同様の取り組みを推進する。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ全体で実施するeラーニングについて、事業会社(含む子会社)の100%履修を徹底する。 ● ケースブックを用いた職場勉強会を推進する。 ● 2013年11月に実施した従業員意識調査から抽出された課題に対し、事業会社ごとに対策を検討する。 ● 事業会社(含む子会社)の各事業場におけるコンプライアンス啓発の責任部署を明確化する。
★★★	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外子会社との「サッポログループのコンプライアンス」共有のため、「サッポログループ企業行動憲章」の外国語版を作成するなど準備に着手する。



SAPPORO

発行元：サッポロホールディングス株式会社

本レポートに関するお問い合わせ先

サッポロホールディングス株式会社
CSR担当

〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号

TEL:03-5423-7211

URL <http://www.sapporoholdings.jp/>

本レポートの情報はホームページでもご覧いただけます



UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

この冊子はFSC®認証紙およびVOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの100%植物油インキを使用しています。
また、風力発電でつくられたグリーン電力(3,000kWh)を使用し、印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。



グリーン電力の電源「祝津風力発電所(室蘭市)」
<http://www.energygreen.co.jp/station/all.php>